BEST AVAILABLE COPY

014123968 **!mage available** WP! Acc No: 2001-608178/200170

XRAM Acc No: CO1-180883 XRPX Acc No: NO1-454090

Semiconductor device, especially pixel portion of reflection-type liquid crystal display device, includes electrode(s) formed on first insulating film and overlapping channel formation region linking source and drain regions

Patent Assignee: SEMICONDUCTOR ENERGY LAB (SEME); KOYAMA (KOYA-I);

YAMAZAKI S (YAMA-1)

Inventor: KOYAMA J; YAMAZAKI S

Number of Countries: 031 Number of Patents: 006

Patent Family:

Patent No Kind Date Applicat No Kind Date Week EP 1128430 A2 20010829 EP 2001104319 20010222 200170 B Α US 20010030322 A1 20011018 US 2001773543 20010202 200170 CN 1314715 A 20010926 CN 2001117390 20010221 200206 Α JP 2001313397 A 20011109 JP 200146401 20010222 200207 KR 2001083207 A 20010831 KR 20018583 A 20010221 200215 TW 485435 20020501 TW 2001102074 A Α 20010201 200318 Priority Applications (No Type Date): JP 200044973 A 20000222 Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

EP 1128430 A2 E 51 H01L-021/84

Designated States (Regional): AL AT BE CH CY DE DK ES FI FR GB GR IE IT LI LT LU LV MC MK NL PT RO SE SI TR

US 20010030322 A1 H01L-029/04

CN 1314715 A H01L-029/786

JP 2001313397 A 27 H01L-029/786

KR 2001083207 A G02F-001/136

TW 485435 A H01L-021/00

Abstract (Basic): EP 1128430 A2

NOVELTY - Device comprises: semiconductor layer formed on an insulating surface and having source, drain and channel formation regions; first insulating film; electrode(s) formed on first insulating film and overlapping the channel formation region; source wiring on first insulating film; second insulating film covering electrode(s) and source wiring; and gate wiring connected to the electrode(s).

DETAILED DESCRIPTION - INDEPENDENT CLAIMS are also included for:

- (a) a semiconductor device as above and further including a connection electrode formed on the second insulating film and connected to the source wiring and the semiconductor layer, and a pixel electrode formed on the second insulating film and connected to the semiconductor layer;
- (b) a semiconductor device comprising a first insulating film adjacent to a semiconductor layer that has source, drain and channel

formation regions; a first insulating film; at least one electrode including a gate electrode formed on the first insulating film and overlapping the channel formation region; source wiring on first insulating film; a second insulating film covering the electrode(s) and source wiring; gate wiring connected to the electrode(s); and pixel electrode electrically connected to the semiconductor layer;

- (c) a semiconductor device comprising a liquid crystal interposed between a pair of substrates, one of which has a pixel portion and a driver circuit, where the pixel portion comprises the semiconductor device described in (a) and the other substrate comprises a light-shielding film in which a red color filter and a blue color filter are laminated so as to overlap the first semiconductor layer;
- (d) a semiconductor device comprising a liquid crystal interposed between a pair of substrates, one of which has a pixel portion and a driver circuit, where the pixel portion comprises the semiconductor device described in (a) except that the connection electrode is omitted; and
 - (e) methods of forming the semiconductor device.

USE - Production of a personal computer, a video camera, a portable information terminal, a digital camera, a digital video disk player, and an electric game appliance (all claimed).

ADVANTAGE - A liquid crystal display device having a pixel structure of a high pixel aperture ratio is realized without increasing the number of masks and the number of manufacturing steps.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The drawing shows a pixel portion according to the invention.

First electrode (134)

Second electrode (135)

Source wiring (137)

Connection electrode (165)

Gate wiring (166)

Pixel electrodes (167, 175)

First semiconductor layer (172)

Second semiconductor layer (173)

pp; 51 DwgNo 1/25

Title Terms: SEMICONDUCTOR; DEVICE; PIXEL; PORTION; REFLECT; TYPE; LIQUID;

CRYSTAL; DISPLAY; DEVICE; ELECTRODE; FORMING; FIRST; INSULATE; FILM;

OVERLAP; CHANNEL; FORMATION; REGION; LINK; SOURCE; DRAIN; REGION

Derwent Class: A85; L03; P81; U11; U14

International Patent Class (Main): G02F-001/136; H01L-021/00; H01L-021/84;

H01L-029/04; H01L-029/786

International Patent Class (Additional): G02F-001/1368; H01L-027/12;

H01L-031/20; H01L-031/36; H01L-031/376; H04N-005/66

File Segment: CPI; EPI; EngPI

DIALOG(R) File 347: JAPIO (c) 2003 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

07085749 **|mage available** SEMICONDUCTOR DEVICE AND ITS FORMING METHOD

PUB. NO.:

2001-313397 [JP 2001313397 A]

PUBLISHED:

November 09, 2001 (20011109)

INVENTOR(s): YAMAZAKI SHUNPEI

KOYAMA JUN

APPLICANT(s): SEMICONDUCTOR ENERGY LAB CO LTD

APPL. NO.:

2001-046401 [JP 20011046401]

FILED:

February 22, 2001 (20010222)

PRIORITY:

2000-044973 [JP 200044973], JP (Japan), February 22, 2000

(20000222)

INTL CLASS:

H01L-029/786; G02F-001/1368; H04N-005/66

ABSTRACT

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve pixel numerical aperture in the display device of a reflection type or a transparent type, without causing the number of masks to be increased or using a black mask.

SOLUTION: At a part where light shielding is performed between pixels, a pixel electrode 167 and a source wiring 137 are partially overlapped and arranged, and a TFT is subjected to light shielding, by using a gate wiring 166 which overlaps with a channel forming region of the TFT. As a result, high pixel numerical aperture is realized.

COPYRIGHT: (C) 2001, JPO

(19)日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号 特開2001-313397 (P2001 - 313397A)

(43)公開日 平成13年11月9日(2001.11.9)

(51) Int.Cl. ⁷		識別配号	FΙ	FΙ		
HOIL	-		H04N	5/66	テーマコード(参考) ・102A	
	1/1368		H01L	29/78	612C	
H04N	5/6 6	102	G02F	1/136	500	
			H01L	29/78	619B	

審査請求 未請求 請求項の数26 OL (全 27 頁)

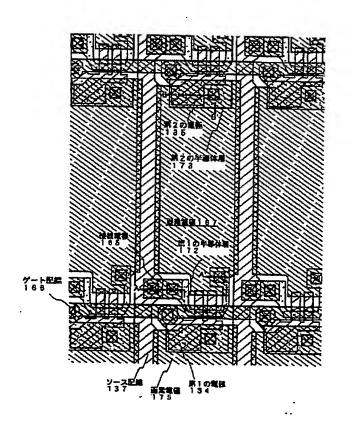
			,
(21)出願番号	特願2001-46401(P2001-46401)	(71)出願人	000153878
(22)出願日 (31)優先権主張番号 (32)優先日 (33)優先権主張国	平成13年2月22日(2001.2.22) 特願2000-44973(P2000-44973) 平成12年2月22日(2000.2.22) 日本(JP)	(72) 発明者	株式会社半導体エネルギー研究所 神奈川県厚木市長谷398番地 山崎 舜平 神奈川県厚木市長谷398番地 株式会社半 導体エネルギー研究所内 小山 潤 神奈川県厚木市長谷398番地 株式会社半 導体エネルギー研究所内
·			

(54) 【発明の名称】 半導体装置およびその作製方法

(57)【要約】

【課題】 マスク数を増加させることなく、プラックマ スクを用いずに反射型または透過型の表示装置における 画案開口率を改善する。

【解決手段】画素間を遮光する箇所は、画案電極167 をソース配線137と一部重なるように配置し、TFT はTFTのチャネル形成領域と重なるゲート配線166 によって遮光することによって、高い画素開口率を実現 する。



【特許耐求の範囲】

と、前記ソース領域と前記ドレイン領域との間に挟まれ るチャネル形成領域とを有する半導体層と、

前記半導体層上に第1絶縁膜と、

前記第1絶縁膜上に前記チャネル形成領域と重なる電極 と、

前記第1絶縁膜上にソース配線と、

前記電極及び前記ソース配線を覆う第2絶録膜と、

前記第2絶録膜上に前記電極と接続されたゲート配線と 10 を有することを特徴とする半導体装置。

【耐求項2】絶緑表面上にソース領域及びドレイン領域 と、前記ソース領域と前記ドレイン領域との間に挟まれ るチャネル形成領域とを有する半導体層と、

前記半導体層上に第1絶縁膜と、

前記第1絶緑膜上に前記チャネル形成領域と重なる電極

前記第1絶録膜上にソース配線と、

前記電極及び前記ソース配線を覆う第2絶縁膜と、 前記第2絶縁膜上に前記電極と接続されたゲート配線

前記第2絶緑膜上に前記ソース配線及び前記半導体層と 接続された接続電極と、

前記第2絶緑膜上に前記半導体層と接続された画案電極 とを有することを特徴とする半導体装置。

【副求項3】 副求項2において、前記画素電極は、前記 第2絶緑膜を間に挟んで前記ソース配線と重なることを 特徴とする半導体装置。

【翻求項4】翻求項1乃至3のいずれかーにおいて、前 記半導体層は、前記第1絶縁膜を間に挟んで前記ゲート 配線と重なる領域を有することを特徴とする半導体装 蹬。

【節求項5】 節求項4において、前記半導体層のうち、 前記第1絶録膜を間に挟んで前記ゲート配線と重なる領 域は、チャネル形成領域を少なくとも含むことを特徴と する半導体装置。

【請求項6】請求項4または請求項5において、前記半 **導体層のうち、前記第1絶緑膜を間に挟んで前記ゲート** 配線と重なる領域は、前記チャネル形成領域と前記ドレ 特徴とする半導体装置。

記半導体圏のうち、前記第1絶縁膜を間に挟んで前記ゲ 一ト配線と重なる領域は、前記チャネル形成領域と前記 ソース領域との間に存在する領域を少なくとも含むこと を特徴とする半導体装置。

【翩求項8】翩求項4乃至1のいずれかーにおいて、前 記半導体層は、複数のチャネル形成領域を有し、

前記半導体層のうち、前記第1絶録膜を間に挟んで前記 ゲート配線と重なる領域は、あるチャネル形成領域とそ 50 接続された接続電極と、

の他のチャネル形成領域との問に存在する領域を少なく とも含むことを特徴とする半導体装置。

【請求項9】 請求項1乃至8のいずれかーにおいて、前 記第1絶繰襲を問に挟んで前記チャネル形成領域と重な る電極は、ゲート電極であることを特徴とする半導体装

【副求項10】闘求項2乃至10のいずれか一におい て、前記電極及び前記ソース配線は同一材料で形成され たことを特徴とする半導体装置。

【醋求項11】 耐求項2乃至10のいずれか―におい て、前記画衆電極、前記接統電極、及び前記ゲート配線 は同一材料で形成されたことを特徴とする半導体装置。

【翻求項12】翻求項1乃至11のいずれか一におい て、前記ゲート配線は、導電型を付与する不純物元素が F-Z introduction F-Z in u、Ta、Cr、またはMoから選ばれた元素を主成分 とする膜またはそれらの積層膜からなることを特徴とす る半導体装置。

【節求項13】 節求項1乃至12のいずれか一におい 20 て、前記第1絶緑膜はゲート絶緑膜であることを特徴と する半導体装置。

【請求項14】 請求項1乃至13のいずれかーにおい て、前記第2絶綠膜は、シリコンを主成分とする第1の 絶縁層と、有機樹脂材料から成る第2の絶縁層とからな ることを特徴とする半導体装置。

【翻求項15】 翻求項2乃至14のいずれかーにおい て、前記画業電極を含む一つの画素は、前記第1絶縁膜 を誘電体として、前記画素電極に接続された半導体層 と、隣りあう画案のゲート配線に接続された電極とで保 30 持容量を形成することを特徴とする半導体装置。

【 節求項16】 前求項15において、前記画素電極に接 統された半導体層にはp型を付与する不純物元素が添加 されたことを特徴とする半導体装置。

された液晶とを備えた液晶表示装置であって、

前記一対の基板のうち、一方の基板には画楽部と駆動回 路とが設けられ、

前記画楽部には、

絶緑表面上にソース領域及びドレイン領域と、前記ソー イン領域との間に存在する領域を少なくとも含むことを 40 ス領域と前記ドレイン領域との間に挟まれるチャネル形 成領域とを有する半導体層と、

前記半導体層上に第1絶縁膜と、

前記第1絶縁膜上に前記チャネル形成領域と重なる電極

前記第1絶縁膜上にソース配線と、

前記電極及び前記ソース配線を覆う第2絶録膜と、 前記第2絶繰膜上に前記電極と接続されたゲート配線 ٤,

前記第2絶綠膜上に前記ソース配線及び前記半導体層と

前記第2絶縁膜上に前記半導体層と接続された画素電極 とを備え、

他方の基板には、前記第1の半導体層と重なるように赤 色カラーフィルタと背色カラーフィルタとが積層された 遮光膜を有することを特徴とする半導体装置。

【副求項18】 聞求項17において、前記第2の絶縁膜 上にコモン配線を有し、基板面に平行な電界が生じるよ うに前記画素電極と前記コモン配線とが配置されたこと を特徴とする半導体装置。

【請求項19】請求項2乃至18のいずれか一におい て、前記半導体装置は、前記画素電極がAlまたはAg を主成分とする膜またはそれらの積層膜からなる反射型 の液晶表示装置であることを特徴とする半導体装置。

【請求項20】 請求項2乃至18のいずれか一におい て、前記半導体装置は、前記画業電極が透明導電膜から なる透過型の液晶表示装置であることを特徴とする半導 体装置。

【請求項21】請求項1乃至20のいずれか―におい て、前記半導体装置は、パーソナルコンピュータ、ビデ ビデオディスクプレーヤー、または電子遊技機器である ことを特徴とする半導体装置。

【節求項22】絶録表面上に結晶質半導体膜からなる半 導体層を形成する第1工程と、

前記半導体層上に第1絶緑膜を形成する第2工程と、 前記第1絶縁膜上に前記半導体層と重なる電極と、ソー ス配線とを形成する第3工程と、

前記電極及び前記ソース配線を覆う第2 絶縁膜を形成す る第4工程と、

前記第2絶縁膜上に前記電極と接続し、且つ前記半導体 30 層と重なるゲート配線と、前記半導体層と前記ソース配 線とを接続する接続電極と、前記ソース配線と重なる画 素電極とを形成する第5工程とを有することを特徴とす る半導体装置の作製方法。

【請求項23】絶縁表面上に結晶質半導体膜からなる第 1の半導体層及び第2の半導体層を形成する第1工程

前記第1の半導体層及び前記第2の半導体層上に第1絶 緑膜を形成する第2工程と、

前記第1絶縁膜上に前記第1の半導体層と重なる第1の 40 電極と、前配第2の半導体層と重なる第2の電極と、ソ ース配線とを形成する第3工程と、

前記第1の電極、前記第2の電極、及び前記ソース配線 を覆う第2絶録膜を形成する第4工程と、

前記第2絶録膜上に前記第1の電極と接続し、且つ第1 ** の半導体層と重なるゲート配線と、前記第1の半導体層 と前記ソース配線とを接続する接続電極と、前記ソース 配線と重なる画案電極とを形成する第5工程とを有する ことを特徴とする半導体装置の作製方法。

統された前記第2の半導体層は、降りあう画素のゲート 配線と接続された前配第2の電極と重なっていることを 特徴とする半導体装置の作製方法。

【甜求項25】 耐求項22乃至24のいずれかーにおい て、前記第2絶綠膜は、シリコンを主成分とする第1の 絶縁層と、有機樹脂材料から成る第2の絶縁層との積層 膜からなることを特徴とする半導体装置の作製方法。

【節求項26】 韶求項22乃至25のいずれかーにおい て、前記第2絶縁膜は、酸化シリコンまたは窒化シリコ 10 ンまたは酸化室化シリコンから成る第1の絶縁層と、ポ リイミドまたはアクリルまたはポリアミドまたはポリイ ミドアミドまたはペンゾシクロプテンからなる第2の絶 緑層との積層膜であることを特徴とする半導体装置の作 製方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は莎膜トランジスタ (以下、TFTという) で構成された回路を有する半導 体装置およびその作製方法に関する。例えば、液晶表示 オカメラ、携帯型情報端末、デジタルカメラ、デジタル 20 パネルに代表される電気光学装置およびその様な電気光 学装置を部品として搭載した電子機器に関する。

> 【0002】なお、本明細書中において半導体装置と は、半導体特性を利用することで機能しうる装置全般を 指し、電気光学装置、半導体回路および電子機器は全て 半導体装置である。

[0003]

【従来の技術】近年、絶録表面を有する基板上に形成さ れた半導体薄膜(厚さ数~数百 n m程度)を用いて薄膜 トランジスタ(TFT)を構成する技術が注目されてい る。薄膜トランジスタはICや電気光学装置のような電 子デバイスに広く応用され、特に液晶表示装置のスイッ チング案子として開発が急がれている。

【0004】液晶表示装置において、高品位な画像を得 るために、画業電極をマトリクス状に配置し、画業電極 の各々に接続するスイッチング素子としてTFTを用い たアクティブマトリクス型液晶表示装置が注目を集めて

【0005】アクティブマトリクス型液晶表示装置には 大きく分けて透過型と反射型の二種類のタイプが知られ ている。

【0006】特に、反射型の液晶表示装置は、透過型の 液晶表示装置と比較して、パックライトを使用しないた め、消費電力が少ないといった長所を有しており、モバ イルコンピュータやビデオカメラ用の直視型表示ディス プレイとしての需要が高まっている。

【0007】なお、反射型の液晶表示装置は、液晶の光 学変調作用を利用して、入射光が画素電極で反射して装 置外部に出力される状態と、入射光が装置外部に出力さ れない状態とを選択し、明と暗の表示を行わせ、さらに 【謝求項24】 謝求項23において、前記画案電極と接 50 それらを組み合わせることで、画像表示を行うものであ

る。一般に反射型の液晶表示装置における画案電極は、 アルミニウム等の光反射率の高い金属材料からなり、薄 膜トランジスタ等のスイッチング素子に電気的に接続し ている。

【0008】従来の反射型の液晶表示装置における画案構造を図23に示す。図23では、ゲート配線(走査線)11と容量配線12の2本を線状形状にパターニング形成している。また、ソース配線(信号線)14を線状形状にパターニング形成している。また、ソース配線14は行方向に、ゲート配線11は列方向にそれぞれ配置され、それぞれの配線同士を絶縁するため、ゲート配線11とソース配線14との間には層間絶縁膜が設けられていた。また、ソース配線14とゲート配線11は、一部交差しており、その交差部近傍に半導体層10を活性層としたTFTが配置されていることが従来の特徴である。

【0009】また、従来では、ソース配線14と同時に 形成し、それぞれのソース配線間に画楽電極15を形成 することが知られている。この構造にした場合と、ソー ス配線と画楽電極との間を遮光膜(ブラックマトリクス 20 とも呼ぶ)13で遮光する必要があった。

【0010】また、従来では、遮光膜13として、クロムなどで形成された金屈膜を所望な形状にパターニングしていた。従って、従来では遮光膜自体を形成するための工程及びマスクが増加する結果となっていた。また、遮光膜13で十分に遮光するためには、遮光膜13で十分に遮光するためには、遮光膜13と画素電極との間に層間絶緑膜を設けて絶縁することが必要となっていた。同様に層間絶緑膜の唇数が増加すると、工程数が増えるためコスト上昇を招いていた。また、層間絶縁性を確保する上で不利となっていた。

【0011】また、従来の他の構造として、ソース配線 11を摂って層間絶縁膜が設けられ、その上に画素電極 は形成される構造が知られている。しかしながら、この 構造にした場合、層数が増加して工程数が増えるため、 コスト上昇を招いていた。

【0012】また、表示性能の面から画素には大きな保持容量を持たせるとともに、高開口率化が求められている。各画案が高い開口率を持つことにより光利用効率が向上し、表示装置の省電力化および小型化が達成できる。

【0013】近年、画素サイズの微細化が進み、より高精細な画像が求められている。画素サイズの微細化は1つの画案に占めるTFT及び配線の形成面積が大きくなり画案開口率を低減させている。

【0014】そこで、規定の画案サイズの中で各画案の 高開口率を得るためには、画案の回路構成に必要な回路 要案を効率よくレイアウトすることが不可欠である。

[0015]

【発明が解決しようとする課題】以上のように、少ない マスク数で画案開口率の高い反射型液晶表示装置または 透過型液晶表示装置を実現するためには、従来にない全 く新しい画素構成が求められている。

[0016] 本発明は、そのような要求に答えるものであり、マスク数及び工程数を増加させることなく、高い 開口率を実現した画案構造を有する液晶表示装置を提供 することを課題とする。

[0017]

【課題を解決するための手段】上述した従来技術の課題 を解決するために以下の手段を誤じた。

【0018】本発明は、ブラックマトリクスを用いることなく、TFT及び画素間を遮光する画素構造を特徴としている。TFTを遮光する手段の一つとして、ゲート電極とソース配線とを第1絶緑膜上に形成されたゲート配線では異なる第2絶緑膜上に形成されたゲート配線で性圏となる半導体層の大部分を覆うことを特徴としている。また、画素間を遮光する手段の一つとして、画来電極をソース配線と重ねて配置することも特徴として、対向基板上に遮光膜としてカラーフィルタ(赤色のカラーフィルタ、または赤色のカラーフィルタと背色のカラーフィルタの積層膜)を楽子基板のTFTと重ねて配置することも特徴としている。

【0019】本明細哲で開示する発明の構成は、絶縁表面上にソース領域及びドレイン領域と、前記ソース領域と前記ドレイン領域との間に挟まれるチャネル形成領域とを有する半導体層(第1の半導体層172)と、前記第1絶縁膜上に前記チャネル形成領域と重なる電極(ゲート電極を含む第1の電極134)と、前記第1絶縁膜上に対一ス配線と、前記電極(ゲート電極を含む第1の電極134)及び前記ソース配線を覆う第2絶縁膜と、前記第2絶縁膜上に前記電極(ゲート電極を含む第1の電極134)と接続されたゲート配線166とを有する半導体装置である。

【0020】また、本明細野で開示する発明の構成は、 絶縁表面上にソース領域及びドレイン領域と、前記ソー ス領域と前記ドレイン領域との間に挟まれるチャネル形成領域とを有する半導体層(第1の半導体層172) と、前記半導体層(第1の半導体層172)上に第1絶 は、前記半導体層(第1の半導体層134)と、前記半導体層(第1の電極134)と、前記第1絶縁膜上に前記電極及び前記第2と、前記第2絶縁膜上にソース配線を接近対に前記第2絶縁膜上に前記第2絶縁膜上に前記第2絶縁膜上に前記第2絶縁膜上に前記第2絶縁膜上に前記半導体層(具体的にはドレイン領域)と接続された接続電極165と、前記第2絶縁膜上に前記半導体層(具体的にはドレイン領域)と接続された画素電極167と を有する半導体装置である。

7 【0021】また、上記構成において、前記画案電極

は、前記第2絶緑膜を間に挟んで前記ソース配線と重な るように配置され、画楽電極とソース配線との間の光洞

【0022】また、上記各構成において、前記半導体層 (第1の半導体層172) は、前記第1絶縁膜を間に挟 んで前記ゲート配線と重なる領域を有することを特徴と している。

[0023] また、上記半導体層のうち、前記第] 絶録 膜を間に挟んでゲート配線と重なる領域は、チャネル形 成領域、あるいは、前記チャネル形成領域と前記ドレイ 10 ン領域との間に存在する領域、あるいは、前記チャネル 形成領域と前記ソース領域との間に存在する領域を少な くとも含むことを特徴としており、外部からの光から保 鱁されている。

【0024】また、前記第1絶緑膜を間に挟んで一つの 半導体層上に複数のゲート電極が存在するマルチゲート 構造の場合は、一つの半導体層に複数のチャネル形成領 域が存在しており、あるチャネル形成領域とその他のチ ャネル形成領域との間に存在する領域と重なるように前 記ゲート配線を配置することが望ましい。

【0025】また、本発明は、マスク数の増加を抑える ために、前記第1絶縁膜上に前記電極及び前記ソース配 線が同一材料で形成され、前記第2絶縁膜上に前記画業 電極、前記接続電極、及び前記ゲート配線が同一材料で 形成されたことを特徴としている。

【0026】また、上記各構成において、前記ゲート配 線は、導電型を付与する不純物元素がドープされたpo ly-Si, W. WSix, Al. Cu, Ta, Cr, またはMoから選ばれた元素を主成分とする膜またはそ れらの稙屈膜からなることを特徴としている。

【0027】また、上記各構成において、前記第1の電 極と前記半導体圏とを絶録するための前記第1絶縁膜は ゲート絶縁膜である。

【0028】また、上配各構成において、ソース配線と ゲート配線とを絶縁する前記第2絶縁膜は、シリコンを 主成分とする第1の絶縁層と、有機樹脂材料から成る第 2の絶縁層とからなることを特徴としている。

【0029】また、上記各構成において、前記画素電極 を含む一つの画素は、前記第1絶錄膜を誘電体として、 前記画衆電極に接続された半導体層(第2の半導体層1 73)と、隣りあう画素のゲート配線に接続された電極 (第2の電極135) とで保持容量を形成することを特 徴としている。また、この半導体層 (第2の半導体層1 73) にはp型を付与する不純物元素が添加されている ことが好ましい。

【0030】また、他の発明の構成は、絶録表面上に形 成された半導体層と、該半導体層上に形成された絶縁膜 と、該絶緑膜上に形成されたゲート電極とを含むTFT を備えた半導体装置において、前記ゲート電極は、端部 がテーパー形状である第1の導電層を下層とし、前記第 50 たCMOS回路を備えた駆動回路を形成する。

1の導電層より狭い幅を有する第2の導電層を上層と し、前記半導体層は、前記絶録膜を間に挟んで前記第2 の導電層と重なるチャネル形成領域と、該チャネル形成 領域と接して形成された第3の不純物領域と、該第3の 不純物領域と接して形成された第2の不純物領域と、該 第2の不純物領域と接して形成された第1の不純物領域 とを含むことを特徴とする半導体装置である。

【0031】また、前記第1の導電層の側斜面が水平面 となす角度 (テーパー角とも言う) は、前記第2の導電 層の側斜面が水平面となす角度より小さい。また、本明 細書中では便宜上、テーパー角を有している側斜面をテ 一パー形状と呼び、テーパー形状を有している部分をテ ーパー部と呼ぶ。

【0032】また、上記構成において、前記第3の不純 物領域は、前記絶縁膜を間に挟んで前記第1の導電層と 重なることを特徴としている。この第3の不純物領域 は、テーパー部を端部に有する第1の導電層と、絶縁膜 とを通過させて半導体層に不純物元素を添加するドーピ ングによって形成される。また、ドーピングにおいて、 20 半導体層上に位置する材料層の膜厚が厚くなればなるほ どイオンの注入される深さが浅くなる。従って、テーバ 一形状となっている導電層の膜厚による影響を受け、半 **苺体層中に添加される不純物元素の濃度も変化する。第** 1の導電層の膜厚が厚くなるに従って半導体層中の不純 物濃度が低減し、薄くなるにつれて濃度が増加する。

【0033】また、上記構成において、前記第1の不純 物領域は、ソース領域またはドレイン領域であることを 特徴としている。

【0034】また、上記構成において、前記絶録膜のう 30 ち、前記第2の不純物領域と重なる領域はテーバー形状 である部分を含むことを特徴としている。この第2の不 純物領域は、絶縁膜を通過させて半導体層に不純物元素 を添加するドーピングによって形成される。従って、絶 緑膜のうち、テーパー形状である部分の影響を受け、第 2の不純物領域の不純物農度の分布も変化する。絶縁膜 の膜厚が厚くなるに従って第2の不純物領域中の不純物 **濃度が低減し、薄くなるにつれて濃度が増加する。な** お、第2の不純物領域は第3の不純物領域と同一のドー ピングによって形成されるが、第1の導電圏と重なって 40 いないため、第2の不純物領域の不純物濃度は、第3の 不純物領域の不純物濃度より高い。また、チャネル長方 向における前記第2の不純物領域の幅は、前記第3の不 純物領域の幅と同じ、或いは前記第3の不純物領域の幅 よりも広い。

【0035】また、上記構成において、前記TFTはn チャネル型TFT、あるいはpチャネル型TFTである ことを特徴としている。また、本発明においてはnチャ ネル型TFTを用いて画案TFTを形成する。また、こ れらのロチャネル型TFTやDチャネル型TFTを用い

【0036】また、本明細書で開示する発明の構成は、 一対の基板と、前記一対の基板間に保持された液晶とを 備えた液晶表示装置であって、前記一対の基板のうち、 一方の基板には画案部と駆動回路とが設けられ、前記画 **桒部には、絶縁表面上にソース領域及びドレイン領域** と、前記ソース領域と前記ドレイン領域との間に挟まれ るチャネル形成領域とを有する半導体層と、前記半導体 層上に第1絶縁膜と、前記第1絶縁膜上に前記チャネル 形成領域と重なる電極と、前記第1絶縁膜上にソース配 線と、前記電極及び前記ソース配線を摂う第2絶緑膜 と、前記第2絶縁膜上に前記電極と接続されたゲート配 線と、前記第2 絶縁膜上に前記ソース配線及び前記半導 体層と接続された接続電極165と、前記第2絶縁膜上 に前記半導体層と接続された画素電極167とを備え、 他方の基板には、前記第1の半導体層と重なるように赤 色カラーフィルタと背色カラーフィルタとが積層された 遮光膜を有することを特徴とする半導体装置である。

【0037】また、上記構成において、前記第2の絶録 膜上にコモン配線を有し、基板面に平行な電界が生じる ように前記画素電極と前記コモン配線とが配置されたⅠ PS方式の液晶表示装置とすることができる。

【0038】また、本明細書で開示する他の発明の構成 は、ゲート配線166は、ゲート電極134と異なった 絶緑膜上に形成されており、さらに前記ゲート電極13 4とソース配線137が第1の絶録膜上に形成され、前 記ゲート配線166と画案電極167は前記第1の絶縁 膜とは異なる第2の絶緑膜上に形成されていることを特 徴とする半導体装置である。

【0039】また、上記構成において、前記画素電極が AlまたはAgを主成分とする膜またはそれらの積層膜 30 やpチャネル型TFTを有する駆動回路とを含む。 からなる反射型の液晶表示装置とすることができる。

【0040】また、上記構成において、前記半導体装置 は、前記画案電極が透明導電膜からなる透過型の液晶表 示装置とすることができる。

【0041】また、上記構造を実現する作製工程におけ る発明の構成は、絶縁表面上に結晶質半導体膜からなる 半導体層を形成する第1工程と、前記半導体層上に第1 絶縁膜を形成する第2工程と、前記第1絶縁膜上に前記 半導体層と重なる電極と、ソース配線とを形成する第3 工程と、前記電極及び前記ソース配線を覆う第2絶縁膜 40 を形成する第4工程と、前記第2絶縁膜上に前記電極と 接続し、且つ前記半導体層と重なるゲート配線と、前記 半導体層と前記ソース配線とを接続する接続電極と、前 記ソース配線と重なる画案電極とを形成する第5工程と 。を有することを特徴とする半導体装置の作製方法であ

【0042】また、上記構造を実現する作製工程におけ る他の発明の構成は、絶縁表面上に結晶質半導体膜から なる第1の半導体層172及び第2の半導体層173を

の半導体層上に第1絶縁膜を形成する第2工程と、前記 第.1 絶縁膜上に前記第1の半導体層と重なる第1の電極 134と、前記第2の半導体層と重なる第2の電極13 5と、ソース配線137とを形成する第3工程と、前記 第1の電極134、前記第2の電極135、及び前記ソ 一ス配線137を覆う第2絶緑膜を形成する第4工程 と、前記第2絶録膜上に前記第1の電極134と接続 し、且つ第1の半導体層と重なるゲート配線166と、 前記第1の半導体層と前記ソース配線とを接続する接続 10 電極165と、前記ソース配線と重なる画楽電極167 とを形成する第5工程とを有することを特徴とする半導 体装置の作製方法である。

【0043】また、上記構成において、前記画素電極と 接続された前記第2の半導体層は、隣りあう画案のゲー ト配線と接続された前記第2の電極と重なっていること を特徴としている。

[0044]

【発明の実施の形態】本発明の実施形態について、以下 に説明する。

【0045】本発明の液晶表示装置は、基本的な構成と して、互いに所定の間隙を間に挟んで接着した紫子基板 及び対向基板と、前記間隙に保持された電気光学物質 (液晶材料等)とを備えている。

【0046】本発明の画素構造の具体例を図1に示す。 ただし、ここでは反射型液晶表示装置の例を示す。

【0047】素子基板は、図1に示すように、行方向に 配置されたゲート配線166と、列方向に配置されたソ 一ス配線137と、ゲート配線とソース配線の交差部近 傍の画案TFTを有する画素部と、nチャネル型TFT

【0048】ただし、図1におけるゲート配線は、行方 向に配置された島状の第1の電極134と接続したもの を指している。また、ゲート配線は第2絶緑膜上に接し て設けられたものである。一方、島状の第1の電極13 4は、ソース配線137と同様に第1絶緑膜(以下、ゲ ート絶縁膜とも呼ぶ)上に接して形成されたものであ

【0049】また、接続電極165は画案電極167、 175、およびゲート配線166と同様に第2絶緑膜 (以下、層間絶縁膜とも呼ぶ) 上に形成されたものであ

【0050】本発明の画案構造とすることによって、下 FTの活性層はゲート配線と重ねることが可能となり、 遮光することができる。

【0051】 穀子基板上のTFTを遮光するため、第1 の半導体層172のうち少なくともチャネル形成領域 は、ゲート配線166により遮光されるよう配置する。 また、チャネル形成領域以外にも、チャネル形成領域と 前記ドレイン領域との間に存在する領域(LDD領域、 形成する第1工程と、前記第1の半導体層及び前記第2 50 オフセット領域等)や、チャネル形成領域と前記ソース 領域との間に存在する領域をゲート配線166により遮 光することが望ましい。また、図1の構造はマルチゲー ト構造となっているため一つの半導体層には、複数のチャネル形成領域が存在している。従って、あるチャネル 形成領域とその他のチャネル形成領域との間に存在する 領域もゲート配線166によって遮光することが望ましい。

【0052】このゲート配線166は、ゲート電極となる第1の電極134が設けられた絶縁膜とは異なる絶縁膜上に接して形成されている。また、図1における画素 10構造においては、この第1の電極134はゲート絶縁膜を介して第1の半導体層と重なるゲート電極となるだけでなく、隣りあう画素の保持容量を構成する電極の一つとなる役目をも果たしている。

【0053】また、本発明の画案構造とすることによって、各画案間は、主に画案電極167の端部をソース配線137と重ね、遮光することが可能となる。

【0054】また、画素電極167と接続電極165との間隙、画素電極167とゲート配線166との間隙等は、対向基板に設けたカラーフィルタにより遮光する。なお、赤色のカラーフィルタ、または赤色のカラーフィルタと背色のカラーフィルタと背色のカラーフィルタと緑色のカラーフィルタの積層膜を所定の位置(素子基板のTFTの位置)にあわせてパターニングしたものを対向基板上に設ける。

【0055】このような構成とすることによって、素子基板のTFTは、主にゲート配線166により遮光され、さらに各画素の間隙は対向基板に設けられたカラーフィルタ(赤色のカラーフィルタの積層膜、または赤色のカラーフィルタと背色のカラーフィルタと緑色のカラーフィルタの積層膜)により遮光することができる。

【0056】また、画素電極167の保持容量は、第2の半導体層173を覆う絶縁膜を誘電体とし、画素電極167と接続された第2の半導体層173と、第2の電極135とで形成している。この時、第2の半導体層の一部にはp型を付与する不純物元素が添加されて始り、第2の電極に電圧が印加された時、チャネル形成領域が形成されることによって保持容量が形成される。さらに、第2の電極と画素電極とが重なっている箇所では、層間絶縁膜157、158を誘電体として保持容量が形成される。なお、ここでは第2の電極を用いて保持容量を形成しているが、特に限定されず、容量配線や容量電極を配置する画素構造としてもよい。

【0057】また、図1に示す画案構造を有する画案部と駆動回路とを有する素子基板を形成するために必要なマスク数は、5枚とすることができる。即ち、1枚目は、第1の半導体層172及び第2の半導体層173をパターニングするマスク、2枚目は、第1の電極13

4、第2の電極135、及びソース配線137をパターニングするマスク、3枚目は、駆動回路のpチャネル型TFT及び保持容量を形成するためにp型を付与する不純物元素を添加する際、nチャネル型TFTを優うためのマスク、4枚目は、第1の半導体層と第2の半導体層と第1の電極と第2の電極とにそれぞれ達するコンタクトホールを形成するマスク、5枚目は、接続電極165、205、ゲート配線166、及び画素電極167、175をパターニングするためのマスクである。

【0058】以上のように、図1に示す画案構造とした、場合、少ないマスク数で画案開口率(約78%)の高い 反射型液晶表示装置を実現することができる。

【0059】また、画業電極として透光性導電膜を用い、所望の形状にパターニングを行えば、1枚マスクが増加するが、透過型液晶表示装置を作製することもできる。透過型とした場合にも、少ないマスク数で画素開口率を約56%とすることができる。

【0060】また、基板面と平行な電界が形成されるようにコモン配線と画素電極とを配置してIPS方式の透過型液晶表示装置を作製することもできる。

【0061】以上の構成でなる本発明について、以下に 示す実施例でもってさらに詳細な説明を行うこととす る。

[0062]

【実施例】[実施例1]本実施例では同一基板上に画案部と、画案部の周辺に設ける駆動回路のTFT(nチャネル型TFT及びpチャネル型TFT)を同時に作製する方法について詳細に説明する。

【0063】まず、図2(A)に示すように、コーニング社の#7059ガラスや#1737ガラスなどに代表されるバリウムホウケイ酸ガラス、またはアルミノホウケイ酸ガラスなどのガラスからなる基板100上に酸化シリコン膜、窒化シリコン膜または酸化窒化シリコン膜などの絶縁膜から成る下地膜101を形成する。例えば、プラズマCVD法でSiH4、NH3、N2Oから作製される酸化窒化シリコン膜102aを10~200m (好ましくは50~100m) 形成し、同様にSiH4、N2Oから作製される酸化窒化水来化シリコン膜101bを50~200m (好ましくは100~150m)の厚さに積層形成する。本実施例では下地膜101を2層構造として示したが、前配絶縁膜の単層膜または2層以上積層させた構造として形成しても良い。

【0064】島状半導体層102~106は、非晶質構造を有する半導体膜をレーザー結晶化法や公知の熱結晶化法を用いて作製した結晶質半導体膜で形成する。この島状半導体層102~106の厚さは25~80nm(好ましくは30~60nm)の厚さで形成する。結晶質半導体膜の材料に限定はないが、好ましくはシリコンまたはシリコンゲルマニウム(SiGe)合金などで形成すると良い。

【0065】レーザー結晶化法で結晶質半導体膜を作製 するには、パルス発振型または連続発光型のエキシマレ ーザーやYAGレーザー、YVO4レーザーを用いる。 これらのレーザーを用いる場合には、レーザー発振器か ら放射されたレーザー光を光学系で線状に集光し半導体 膜に照射する方法を用いると良い。結晶化の条件は実施 者が適宜選択するものであるが、エキシマレーザーを用 いる場合はパルス発振周波数30Hzとし、レーザーエ ネルギー密度を100~400mJ/cm²(代表的には20 0~300ml/cm²)とする。また、YAGレーザーを用 いる場合にはその第2高調波を用いパルス発振周波数1 ~10kHzとし、レーザーエネルギー密度を300~ 6 0 0 mJ/cm² (代表的には3 5 0 ~ 5 0 0 mJ/cm²) とする と良い。そして幅 1 0 0 ~ 1 0 0 0 μm、例えば 4 0 0 μmで線状に集光したレーザー光を基板全面に渡って照 射し、この時の線状レーザー光の重ね合わせ率(オーバ ーラップ率)を80~98%として行う。

[0066] 次いで、島伏半導体圏102~106を覆 うゲート絶縁膜107を形成する。ゲート絶縁膜107 はプラズマCVD法またはスパッタ法を用い、厚さを4 0~150nmとしてシリコンを含む絶録膜で形成す る。本実施例では、120 nmの厚さで酸化窒化シリコ ン膜で形成する。勿論、ゲート絶縁膜はこのような酸化 窒化シリコン膜に限定されるものでなく、他のシリコン を含む絶縁膜を単層または積層構造として用いても良 い。例えば、酸化シリコン膜を用いる場合には、プラズ マCVD法でTEOS (Tetraethyl Orthosilicate) と O2とを混合し、反応圧力4 OPa、基板温度300~4 00℃とし、高周波 (13.56MHz) 電力密度 0.5 ~ 0 . 8 W/cm^2 で放電させて形成することができる。こ のようにして作製される酸化シリコン膜は、その後40 0~500℃の熱アニールによりゲート絶録膜として良 好な特性を得ることができる。

【0067】そして、ゲート絶録膜107上にゲート電 極を形成するための第1の導電膜108と第2の導電膜 109とを形成する。本実施例では、第1の導電膜10 8をTaNで50~100nmの厚さに形成し、第2の 導電膜をWで100~300nmの厚さに形成する。

【0068】TaN膜はスパッタ法で形成し、Taのタ 形成する場合には、Wをターゲットとしたスパッタ法で 形成する。その他に 6 フッ化タングステン (W.F.6) を 用いる熱CVD法で形成することもできる。いずれにし てもゲート電極として使用するためには低抵抗化を図る 必要があり、W膜の抵抗率は20μΩcm以下にするこ とが望ましい。W膜は結晶粒を大きくすることで低抵抗 率化を図ることができるが、W中に酸素などの不純物元 案が多い場合には結晶化が阻害され高抵抗化する。この ことより、スパッタ法による場合、純皮99、9999 %または99.99%のWターゲットを用い、さらに成 50 膜時に気相中からの不純物の混入がないように十分配成 してW膜を形成することにより、抵抗率9~20μΩc mを実現することができる。

[0069] なお、本実施例では、第1の導電膜108 をTaN、第2の導電膜109をWとしたが、特に限定 されず、いずれもTa、W、Ti、Mo、AI、Cuか ら選ばれた元素、または前記元素を主成分とする合金材 料若しくは化合物材料で形成してもよい。また、リン等 の不純物元素をドーピングした多結晶シリコン膜に代表 10 される半導体膜を用いてもよい。本実施例以外の他の組 み合わせの一例は、第1の導電膜をタンタル (Ta) で 形成し、第2の導電膜をWとする組み合わせ、第1の導 電膜を室化タンタル(TaN)で形成し、第2の導電膜 をAlとする組み合わせ、第1の導電膜を室化タンタル (TaN)で形成し、第2の導電膜をCuとする組み合 わせで形成することが好ましい。

【0070】次に、レジストによるマスク110~11 6を形成し、電極及び配線を形成するための第1のエッ チング処理を行う。本実施例ではICP(Inductively Coupled Plasma:誘導結合型プラズマ) エッチング法を 用い、エッチング用ガスにCF4とC12を混合し、1Pa の圧力でコイル型の電極に500WのRF (13.56MHz) 電力を投入してプラズマを生成して行う。基板側(試料 . ステージ)にも100WのRF(13.56MHz)電力を投入 し、実質的に負の自己パイアス電圧を印加する。CF4 とCl2を混合した場合にはW膜及びTaN膜とも同程 度にエッチングされる。

【0071】上記エッチング条件では、レジストによる マスクの形状を適したものとすることにより、基板側に 30 印加するパイアス。電圧の効果により第1の導電層及び第 2の導電層の端部がテーパー形状となる。テーパー部の 角度は 15~45°となる。ゲート絶縁膜上に残渣を残 すことなくエッチングするためには、10~20%程度 の割合でエッチング時間を増加させると良い。W膜に対 する酸化窒化シリコン膜の選択比は2~4 (代表的には 3) であるので、オーバーエッチング処理により、酸化 窒化シリコン膜が露出した面は20~50m程度エッチ ングされることになる。こうして、第1のエッチング処 理により第1の導電層と第2の導電層から成る第1の形 ーゲットを窒棄を含む雰囲気内でスパッタする。W膜を 40 状の尊電層118~124 (第1の導電層118a~1 24aと第2の導電層118b~124b)を形成す る。117はゲート絶繰膜であり、第1の形状の導電層 118~124で覆われない領域は20~50m程度工 ッチングされ薄くなった領域が形成される。

[0072] また、本実施例では1回のエッチングによ り第1の形状の導電圏118~124を形成したが、複 数のエッチングによって形成してもよいことは言うまで もない。

【0073】そして、第1のドーピング処理を行いn型 を付与する不純物元素を添加する。(図2(B)) ドー

ピングの方法はイオンドープ法若しくはイオン注入法で行えば良い。イオンドープ法の条件はドーズ量を 1×1 0 $^{13}\sim5\times10^{14}$ aloms/cm 2 とし、加速電圧を $60\sim1$ 00keVとして行う。n型を付与する不純物元素として15族に属する元素、典型的にはリン (P) または砒素 (As) を用いるが、ここではリン (P) を用いる。この場合、導電層 $118\sim122$ がn型を付与する不純物元素に対するマスクとなり、自己整合的に第1の不純物領域 $125\sim129$ が形成される。第1の不純物領域 $125\sim129$ には $1\times10^{20}\sim1\times10^{21}$ alomic/cm 3 の農度範囲でn型を付与する不純物元素を添加する。

[0074] 次に、図2(C)に示すように第2のエッチング処理を行う。同様にICPエッチング法を用い、エッチングガスにCF4とCl2とO2を混合して、1Paの圧力でコイル型の電極に500WのRF電力(13.56MH2)を供給し、プラズマを生成して行う。基板側(試料ステージ)には50WのRF(13.56MH2)電力を投入し、第1のエッチング処理に比べ低い自己バイアス電圧を印加する。このような条件によりW膜を異方性エッチングし、かつ、それより遅いエッチング速度で第1の導電層し、かつ、それより遅いエッチングを要で第1の導電層を131~137(第1の導電層131~137aと第2の導電層131~137(第1の導電層131~137aと第2の導電層131~137(第2の形状の導電層131~137で覆われない領域はさらに20~50m程度エッチングされ薄くなった領域が形成される。

【0075】また、本実施例では1回のエッチングにより図2(C)に示した第2の形状の導電層131~137を形成したが、複数のエッチングによって形成してもよいことは言うまでもない。例えば、CF4とCl2の混合ガスによるエッチングを行った後、CF4とCl2とO2の混合ガスによるエッチングを行ってもよい。

[0076] W膜やTaN膜のCF4とCl2の混合ガス によるエッチング反応は、生成されるラジカルまたはイ オン種と反応生成物の蒸気圧から推測することができ る。WとTaNのフッ化物と塩化物の蒸気圧を比較する と、Wのフッ化物であるWF6が極端に高く、その他の WCl5、TaF5、TaCl5は同程度である。従っ て、CF4とCl2の混合ガスではW膜及びTaN膜共に エッチングされる。しかし、この混合ガスに適量のO2 を添加するとCF4とO2が反応してCOとFになり、F ラジカルまたはFイオンが多量に発生する。その結果、 フッ化物の蒸気圧が高いW膜のエッチング速度が増大す る。一方、TaNはFが増大しても相対的にエッチング 速度の増加は少ない。また、TaNはWに比較して酸化 されやすいので、O2を添加することでTaNの表面が 多少酸化される。 TaNの酸化物はフッ素や塩素と反応 しないためさらにTaN膜のエッチング速度は低下す る。従って、W膜とTaN膜とのエッチング速度に差を 作ることが可能となりW膜のエッチング速度をTaN膜 50 よりも大きくすることが可能となる。

【0077】そして、図3(A)に示すように第2のド ーピング処理を行う。この場合、第1のドーピング処理 よりもドーズ量を下げて高い加速電圧の条件としてn型 を付与する不純物元素をドーピングする。例えば、加速 電圧を70~120keVとし、1×10¹³/cm²のドー ズ量で行い、図2(B)で島状半導体層に形成された第 1の不純物領域の内側に新たな不純物領域を形成する。 ドーピングは、第2の形状の尊電層131b~135b を不純物元素に対するマスクとして用い、第1の尊電層 131a~135aの下側の領域にも不純物元素が添加 されるようにドーピングする。こうして、第1の専電層 131.a~135aと重なる第3の不純物領域143~ 147と、第1の不純物領域と第3の不純物領域との間 の第2の不純物領域138~142とを形成する。n型 を付与する不純物元素は、第2の不純物領域で1×10 ¹⁷~1×10¹⁹aloms/cm³の濃度となるようにし、第3 の不純物領域で I × 1 0 16~ 1 × 1 0 18 atoms/cm3の遵 度となるようにする。

20 【0078】また、ここでは、レジストマスクをそのままの状態としたまま、第2のドーピング処理を行った例を示したが、レジストマスクを除去した後、第2のドーピング処理を行ってもよい。

【0079】そして、図3(B)に示すように、pチャ ネル型TFTを形成する島状半導体層104に一導電型 とは逆の導電型の不純物元素が添加された第4の不純物 領域151~156を形成する。第2の導電層132、 135を不純物元素に対するマスクとして用い、自己整 合的に不純物領域を形成する。このとき、nチャネル型 はレジストマスク148~150で全面を被覆してお く。不純物領域151~156にはそれぞれ異なる濃度 でリンが添加されているが、ジボラン (B2H6) を用い たイオンドープ法で形成し、そのいずれの領域において も不純物濃度を2×10²⁰~2×10²¹atoms/cm³とな るようにする。実際には、第4の不純物領域に含まれる ボロンは、第2のドーピング処理と同様に半導体層上に 位置するテーパー形状となっている導電層や絶縁膜の膜 厚による影響を受け、第4の不純物領域中に添加される 不純物元素の濃度は変化している。

【0080】以上までの工程でそれぞれの島状半導体層に不純物領域が形成される。島状半導体層と重なる第2の夢電層131~134がゲート電極として機能する。また、137はソース配線、134は、一部がゲート電極としての機能を果たす第1の電極、135は保持容量を形成するための第2の電極として機能する。

【0081】こうして夢電型の制御を目的として図3 (C)に示すように、それぞれの島状半導体層に添加された不純物元素を活性化する工程を行う。この工程はファーネスアニール炉を用いる熱アニール法で行う。その 他に、レーザーアニール法、またはラピッドサーマルアニール法(RTA法)を適用することができる。熱アニール法では酸素濃度が1ppm以下、好ましくは0.1ppm以下の窒素雰囲気中で400~700℃、代表的には500~550℃で行うものであり、本実施例では500℃で4時間の熱処理を行う。ただし、131~137に用いた配線材料が熱に弱い場合には、配線等を保護するため層間絶緑膜(シリコンを主成分とする絶緑膜、例えば窒化珪素膜)を形成した後で活性化を行うことが好ましい。

【0082】この活性化工程後での画素部における上面図を図6に示す。なお、図1~図5に対応する部分には同じ符号を用いている。図3中の鎖線C-C'は図6中の鎖線C-C'で切断した断面図に対応している。また、図3中の鎖線D-D'で切断した断面図に対応している。

【0083】さらに、3~100%の水楽を含む雰囲気中で、300~550℃で1~12時間の熱処理を行い、島状半導体層を水業化する工程を行う。この工程は熱的に励起された水素により半導体層のダングリングボンドを終端する工程である。水業化の他の手段として、プラズマ水業化(プラズマにより励起された水楽を用いる)を行っても良い。

と重なる第3の不純物領域145(GOLD領域)は145(COLD領域)とソース領域またはドレイン領域を持ちる第1の不純物領域127を有している。

【0089】画楽部の画案TFT404にはチャ成領域171、ゲート電極を形成する第2の等領域171、ゲート電極を形成する第2の等領域171、ゲート電極を形成する第2の等領域171、ゲート電極を形成する第2の等領域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ゲート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を形成する第2の表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電極を表域171、ケート電板171、ケートでは171

【0084】また、活性化処理としてレーザーアニール 法を用いる場合は、空化珪素膜または空化酸化珪素膜からなる保護膜を形成し、上記水素化を行った後、YAG レーザー等のレーザー光を照射すればよい。

【0085】次いで、第1の層間絶縁膜157を酸化室 化シリコン膜から100~200nmの厚さで形成す る。次いで、第1の層間絶縁膜157上に有機絶縁物材 料から成る第2の層間絶縁膜157上に有機絶縁物材 料から成る第2の層間絶縁膜158を形成する。次い で、コンタクトホールを形成するためのエッチング工程 を行う。

【0086】そして、駆動回路406において島状半導体層のソース領域とコンタクトを形成するソース配線159~161、ドレイン領域とコンタクトを形成するドレイン配線162~164を形成する。また、画素部407においては、画案電極167、ゲート配線166、接続電極165を形成する。(図4)この接続電極165を形成する。(図4)この接続電極165によりソース配線137は、画業TFT404と電気約な接続が形成される。また、ゲート配線166は、第1の電極と電気的な接続が形成される。また、画案電極167は、画案TFTの活性層に相当する島状半導体層(図1中における第1の半導体層172に相当)及び保持容量を形成する。島状半導体層(図1中における第2の半導体層173に相当)とそれぞれ電気的な接続が形成される。

【0087】以上の様にして、nチャネル型TFT40 1、pチャネル型TFT402、nチャネル型TFT4 03を有する駆動回路406と、画来TFT404、保 50 [0088] 駆動回路406のnチャネル型TFT40 1はチャネル形成領域168、ゲート電極を形成する第 2の導電層131と重なる第3の不純物領域143 (G OLD領域)、ゲート電極の外側に形成される第2の不 一种物領域138(LDD領域)とソース領域またはドレ イン領域として機能する第1の不純物領域125を有し 10 ている。pチャネル型TFT402にはチャネル形成領 域169、ゲート電極を形成する第2の導電層132と **重なる第4の不純物領域153、ゲート電極の外側に形** 成される第4の不純物領域152、ソース領域またはド レイン領域として機能する第4の不純物領域151を有 している。nチャネル型TFT403にはチャネル形成 領域170、ゲート電極を形成する第2の導電層133 と重なる第3の不純物領域145(GOLD領域)、ゲ ート電極の外側に形成される第2の不純物領域140 (LDD領域) とソース領域またはドレイン領域として

[0089] 画楽部の画案TFT404にはチャネル形 成領域171、ゲート電極を形成する第2の導電圏13 4と重なる第3の不純物領域146 (GOLD領域)、 ゲート電極の外側に形成される第2の不純物領域141 (LDD領域) とソース領域またはドレイン領域として 機能する第1の不純物領域128を有している。また、 保持容量405の一方の電極として機能する半導体層に は第4の不純物領域と同じ濃度で、それぞれp型を付与 する不純物元素が添加されており、第1の電極135と その間の絶縁層(ゲート絶縁膜と同じ層)とで保持容量 を形成している。また、ゲート電極としても機能する第 2の電極を保持容量405の一方の電極としたため、半 導体層には p 型を付与する不純物元素が添加されてい る。対角4インチ以下の画面が小さい場合には、小さい 保持容量でも十分であり開口率が重視されるため、本実 施例の容量構成とすることが好ましい。一方、大面積の 画面が必要とされる場合には、保持容量が比較的大きく とれる図13に示す画案構造とすることが望ましい。

【0090】本実施例で作製するアクティブマトリクス基板の画案部の上面図を図1に示す。なお、図2〜図6に対応する部分には同じ符号を用いている。図1中の鎖線A-A'は図4中の鎖線A-A'で切断した断面図に対応している。また、図1中の鎖線B-B'は図6中の鎖線B-B'で切断した断面図に対応している。

【0091】このように、本実施例の画案構造を有するアクティブマトリクス基板は、一部がゲート電極の機能を果たす第1の電極134とゲート配線166とを異なる層に形成し、ゲート配線166で半導体層を遮光することを特徴としている。

【0092】また、本実施例の画素構造は、プラックマ

トリクスを用いることなく、画素電極間の隙間が遮光さ れるように、画案電極の端部をソース配線と重なるよう に配置する。

【0093】上述の画案構造とすることにより大きな面 **積を有する画業電極を配置でき、開口率を向上させるこ** とができる。

【0094】また、本実施例で示す工程に従えば、アク ティブマトリクス基板の作製に必要なフォトマスクの数 を5枚(島状半導体層パターンマスク、第1配線パター ンマスク(第1の電極134、第2の電極135、ソー ス配線137を含む)、p型TFTのソース領域及びド レイン領域形成のパターンマスク、コンタクトホールの パターンマスク、第2配線パターンマスク (画案電極 1 67、接続電極165、ゲート配線166を含む)とす ることができる。その結果、工程を短縮し、製造コスト の低減及び歩留まりの向上に寄与することができる。

【0095】また、本実施例では、ゲート電極とソース 配線を同時に形成する例を示したが、マスクを1枚増や し、さらにゲート電極と第1の電極を別の工程で形成し てもよい。即ち、まず、半導体層と重なりゲート電極と 20 なる部分だけを形成し、順次n型またはp型の不純物元 素を添加し、活性化を行った後、ゲート電極と重ねて第 1の電極を形成する。この際、コンタクトホールの形成 を行うことなく、単なる重ね合わせでゲート電極と第1 の電極とのコンタクトを形成する。また、第1の電極と 同時にソース配線を形成する。こうすることによって第 1の電極及びソース配線の材料として低抵抗なアルミニ ウムや鈅を用いることが可能となる。

【0096】[実施例2]本実施例では、実施例1で作製 クス型液晶表示装置を作製する工程を以下に説明する。 説明には図5を用いる。

【0097】まず、実施例1に従い、図4の状態のアク ティブマトリクス基板を得た後、図4のアクティブマト リクス基板上に配向膜567を形成しラピング処理を行

【0098】一方、対向基板569を用意する。対向基 板569にはカラーフィルタ570、571、オーパー コート層573を形成する。カラーフィルタはTFTの 上方で赤色のカラーフィルタ570と青色のカラーフィ 40 ルタ571とを重ねて形成し遮光膜を兼ねる構成とす る。実施例1の基板を用いた場合、少なくともTFT と、接続電極と画案電極との間を遮光する必要があるた め、それらの位置を遮光するように赤色のカラーフィル **タと宵色のカラーフィルタを重ねて配置することが好ま** しい。

【0099】また、接続電極165に合わせて赤色の力 ラーフィルタ570、背色のカラーフィルタ571、緑 色のカラーフィルタ572とを重ね合わせてスペーサを 形成する。各色のカラーフィルタはアクリル樹脂に顔料 50 配列は任意なものとする。

を混合したもので1~3μmの厚さで形成する。これは 感光性材料を用い、マスクを用いて所定のパターンに形 成することができる。スペーサの高さはオーバーコート 層の厚さ1~4μπを考慮することにより2~7μπ、好 ましくは4~6 μ mとすることができ、この高さにより アクティブマトリクス基板と対向基板とを貼り合わせた 時のギャップを形成する。オーパーコート層は光硬化型 または熱硬化型の有機樹脂材料で形成し、例えば、ポリ イミドやアクリル樹脂などを用いる。

【0100】スペーサの配置は任意に決定すれば良い が、例えば図5で示すように接続電極上に位置が合うよ うに対向基板に配置すると良い。また、駆動回路のTF T上にその位置を合わせてスペーサを対向基板上に配置 してもよい。このスペーサは駆動回路部の全面に渡って 配置しても良いし、ソース線およびドレイン線を覆うよ うにして配置しても良い。

【0101】オーパーコート層573を形成した後、対 向電極576をパターニング形成し、配向膜574を形 成した後、ラビング処理を行う。

【0102】そして、画楽部と駆動回路が形成されたア クティブマトリクス基板と対向基板とをシール剤568 で貼り合わせる。シール剤568にはフィラーが混入さ れていて、このフィラーとスペーサによって均一な問題 を持って2枚の基板が貼り合わせられる。その後、両基 板の間に液晶材料を注入し、封止剤 (図示せず) によっ て完全に封止する。液晶材料には公知の液晶材料を用い れば良い。このようにして図5に示すアクティブマトリ クス型液晶表示装置が完成する。

[0103] [実施例3]実施例2を用いて得られたアク したアクティブマトリクス基板から、アクティブマトリ 30 ティブマトリクス型液晶表示装置 (図 5) の構成を図 7 の上面図を用いて説明する。なお、図5と対応する部分 には同じ符号を用いた。

> 【0104】図7(A)で示す上面図は、画楽部、駆動 回路、FPC(フレキシブルプリント配線板:Flexible Printed Circuit) を貼り付ける外部入力端子203、 外部入力端子と各回路の入力部までを接続する配線20 4などが形成されたアクティブマトリクス基板201 と、カラーフィルタなどが形成された対向基板202と がシール材568を間に挟んで貼り合わされている。

【0105】ゲート配線側駆動回路205とソース配線 **側駆動回路206の上面には対向基板側に赤色カラーフ** ィルタまたは赤色と背色のカラーフィルタを積層させた 遊光膜207が形成されている。また、画素部407上 の対向基板側に形成されたカラーフィルタ208は赤色 (R)、緑色(G)、脊色(B)の各色のカラーフィル 夕が各画案に対応して設けられている。実際の表示に除 しては、赤色(R)のカラーフィルタ、緑色(G)のカ ラーフィルタ、宵色(B)のカラーフィルタの3色でカ ラー表示を形成するが、これら各色のカラーフィルタの

【0106】図8(A)は図7(A)で示す外部入力端子203のF-F 線に対する断面図を示している。外部入力端子はアクティブマトリクス基板側に形成され、層間容量や配線抵抗を低減し、断線による不良を防止するために画楽電極と同じ層で形成される配線209によって層間絶録膜158を間に挟んでゲート配線と同じ層で形成される配線211と接続する。

【0107】また、外部入力端子にはベースフィルム2 12と配線213から成るFPCが異方性導電性樹脂2 14で貼り合わされている。さらに補強板215で機械 10 的強度を高めている。

【0108】図8 (B) はその詳細図を示し、図8

(A) で示す外部入力端子の断面図を示している。アク ティブマトリクス基板側に設けられる外部入力端子が第 1の電極及びソース配線と同じ層で形成される配線21 1と、画楽電極と同じ層で形成される配線209とから 形成されている。勿論、これは端子部の構成を示す一例 であり、どちらか一方の配線のみで形成しても良い。例 えば、第1の電極及びソース配線と同じ層で形成される 配線211で形成する場合にはその上に形成されている 20 層間絶縁膜を除去する必要がある。画楽電極と同じ層で 形成される配線209は、Ti膜209a、A1膜20 9 b、Sn膜209cの3層構造で形成されている。F PCはペースフィルム212と配線213から形成さ れ、この配線213と画案電極と同じ層で形成される配 線209とは、熱硬化型の接着剤214とその中に分散 している尊電性粒子216とから成る異方性導電性接着 剤で貼り合わされ、電気的な技統構造を形成している。 【0109】一方、図7(B)は図7(A)で示す外部 入力端子203のE-E、線に対する断面図を示してい る。導電性粒子216の外径は配線209のピッチより も小さいので、接着剤214中に分散する量を適当なも のとすると隣接する配線と短絡することなく対応するF PC側の配線と電気的な接統を形成することができる。 【0110】以上のようにして作製されるアクティブマ

【0111】[実施例4]実施例1で作製したアクティブマトリクス基板は、そのまま反射型の表示装置に適用することができる。一方、透過型の液晶表示装置とする場 40合には画楽部の各画楽に設ける画楽電板を透明電極で形成すれば良い。本実施例では透過型の液晶表示装置に対応するアクティブマトリクス基板の作製方法について図9を用いて説明する。

トリクス型の液晶表示装置は各種電子機器の表示部とし

て用いることができる。

【0112】アクティブマトリクス基板は半導体層に達するコンタクトホール形成まで実施例1に従って作製する。次いで、ソース配線137とソース領域を接続する接続電極165と、ゲート配線300と、ドレイン電極と画素電極を接続する接続電極301を形成する。(図9(A))これらの電極や配線は導電性の金属膜をスパ 50

ッタ法や真空蒸若法で形成した後、バターニングする。 接続電極301を例としてこの構成を図9(B)で詳細 に説明すると、T1膜301aを50~150nmの厚 さで形成し、島状半導体層のソースまたはドレインの を形成する半導体膜とコンタクトを形成する。そのTi 膜301a上に重ねてA1膜301bを300~400 nmの厚さで形成し、さらにTi膜301cまたはで形成 し、フォトマスクを用いたバターニング処理およで形成 し、フォトマスクを用いたバターニング処理およで チング処理により画素電極303を形成する。 の接続電極301と重なる部分を設け電気的な接続を 形成している。

【0113】また、最初に第2の層間絶縁膜上に透明導電膜を形成し、パターニング処理およびエッチング処理をして画業電極を形成した後、接続電極を画業電極に接して一部積層させてコンタクトホールを介さずに接続部を形成してもよい。

(In2O3-ZnO)を用いても良い。酸化インジウム酸化亜鉛合金は表面平滑性に優れ、ITOに対して熱安 20 定性にも優れているので、接続電極301の端面で、Al膜301bが画素電極303と接触して腐蝕反応をすることを防止できる。同様に、酸化亜鉛(ZnO)も適した材料であり、さらに可視光の透過率や導電率を高めるためにガリウム(Ga)を添加した酸化亜鉛(ZnO:Ga)などを用いることができる。

【0115】また、図25に画業の上面図を示す。図25に示した画素の開口率は約56%である。なお、図9に対応する部分には同じ符号を用いた。

【0116】また、透過型の液晶表示装置の端子部の断面図を図9(C)に示した。アクティブマトリクス基板側に設けられる外部入力端子が第1の電極及びソース配線と同じ層で形成される配線311と、画楽電極と同じ層で形成される配線309とから形成されている。勿論、これは端子部の構成を示す一例であり、どちらか一方の配線のみで形成しても良い。例えば、第1の電極及びソース配線と同じ層で形成される配線311で形成する場合にはその上に形成されている層間絶縁膜を除去する必要がある。

[0117] また、画素電極と同じ層で形成される配線 309は、Ti膜309a、A1膜309b、Ti膜3

【0118】また、FPCはペースフィルム312と配線313から形成され、この配線313と画素電極と同じ層で形成される配線309とは、熱硬化型の接着剤314とその中に分散している導電性粒子316とから成る異方性導電性接着剤で貼り合わされ、電気的な接続構造を形成している。

【0119】以上のように、実施例1では反射型の液晶表示装置を作製できるアクティブマトリクス基板を5枚のフォトマスクにより作製したが、さらに1枚のフォトマスクの追加(合計6枚)で、透過型の液晶表示装置に対応したアクティブマトリクス基板を完成させることができる。本実施例では、実施例1と同様な工程として説明したが、このような構成は実施例2に適用することができる。

【0120】[実施例5]本実施例では、第2配線としてAgとAlの積局構造を用いた例を図10に示す。なお、本実施例は実施例1とは、第2配線パターン以外の構成が同一である。ここでは実施例1と異なる点について述べる。

【0121】本実施例では、引き出し電極609として反射率の高いAgを含む積層構造を用いた。この引き出し電極609は、ここでは図示しない画素電極、接続電極、ゲート配線と同時に作製される。609aはAlからなる抵抗率の低い導電層、609bはAgを主成分とする反射率の高い導電層である。このような組み合わせとすることにより反射率が高く、且つ配線抵抗の低いアクティブマトリクス基板を実現できる。

【0122】なお、本実施例は実施例1乃至4のいずれか一と自由に組み合わせることができる。

【0123】[実施例6]本実施例では、実施例1とはアクティブマトリクス基板のTFT構造が異なる他の例を図11を用いて説明する。

【0124】図11に示すアクティブマトリクス基板は、第1のPチャネル型TFT850と第2のnチャネル型TFT851を有するロジック回路部855と第2のnチャネル型TFT852から成るサンプリング回路 40部856とを有する駆動回路857と、画案TFT853と保持容量854を有する画案部858とが形成されている。駆動回路857のロジック回路部855のTFTはシフトレジスタ回路やパッファ回路などを形成し、サンプリング回路部856のTFTは基本的にはアナログスイッチで形成する。

【0125】これらのTFTは基板801に形成した下地膜802上の島状半導体層803~806にチャネル形成領域やソース領域、ドレイン領域及びLDD領域などを設けて形成する。下地膜や岛状半導体層は実施例1

と同様にして形成する。ゲート絶縁膜808上に形成するゲート電極809~812は端部がテーパー形状となるように形成することに特徴があり、この部分を利用してLDD領域を形成している。このようなテーパー形状は実施例1と同様に、ICPエッチング装置を用いたW膜の異方性エッチング技術により形成することができる。また、ソース配線813、第2の電極(容量電極)815もテーパー形状となる。

【0126】テーパー形状の部分を利用して形成される 10 LDD領域はnチャネル型TFTの信頼性を向上させる ために設け、これによりホットキャリア効果によるオン 電流の劣化を防止する。このLDD領域はイオンドープ 法により当該不純物元素のイオンを電界で加速して、ゲート電極の端部及び該端部の近傍におけるゲート絶縁膜を通して半導体膜に添加する。

【0127】第1のnチャネル型TFT851にはチャ ネル形成領域832の外側に第1のLDD領域835、 第2のLDD領域834、ソースまたはドレイン領域8 33が形成され、第1のLDD領域835はゲート電極 20 810と重なるように形成されている。また、第1のL DD領域835と第2のLDD領域834とに含まれる n型の不純物元素は、上層のゲート絶縁膜やゲート電極 の膜厚の差により第2のLDD領域834の方が高くな っている。第2のnチャネル型TFT852も同様な檰 成とし、チャネル形成領域836、ゲート電極と重なる 第1のLDD領域839、第2のLDD領域838、ソ 一スまたはドレイン領域837から成っている。一方、 pチャネル型TFT850はシングルドレインの構造で あり、チャネル形成領域828の外側にp型不純物が添 加された不純物領域829~831が形成されている。 [0128] 画案部858において、nチャネル型TF Tで形成される画業TFTはオフ電流の低減を目的とし てマルチゲート構造で形成され、チャネル形成領域84 0の外側にゲート電極と重なる第1のLDD領域84 3、第2のLDD領域842、ソースまたはドレイン領 域841が設けられている。また、保持容量854は島 状半導体層807とゲート絶緑膜808と同じ層で形成 される絶縁層と第2の電極815とから形成されてい る。 島状半導体層 8 0 7 には p 型不純物が添加されてい て、抵抗率が低いことにより第2の電極に印加する電圧 を低く抑えることができる。

【0129】層間絶繰膜は酸化シリコン、窒化シリコン、または酸化窒化シリコンなどの無機材料から成り、50~500mの厚さの第1の層間絶繰膜816と、ボリイミド、アクリル、ボリイミドアミド、BCB(ペンソシクロプテン)などの有機絶縁物材料から成る第2の層間絶繰膜817とで形成する。このように、第2の層間絶縁膜を有機絶縁物材料で形成することにより、表面を良好に平坦化させることができる。また、有機樹脂材料は一般に誘電率が低いので、寄生容量を低減するでき

る。しかし、吸湿性があり保護膜としては適さないの で、第1の層間絶縁膜816と組み合わせて形成するこ とが好ましい。

【0130】その後、所定のパターンのレジストマスク を形成し、それぞれの島状半導体層に形成されたソース 領域またはドレイン領域に達するコンタクトホールを形 成する。コンタクトホールの形成はドライエッチング法 により行う。この場合、エッチングガスにCF₄、O₂、 Heの混合ガスを用い有機樹脂材料から成る層間絶録膜 をまずエッチングし、その後、続いてエッチングガスを 10 る。 CF₄、O₂として保護絶錄膜をエッチングする。さら に、島状半導体圏との選択比を高めるために、エッチン グガスをCHF3に切り替えてゲート絶縁膜をエッチン グすることにより、良好にコンタクトホールを形成する ことができる。

【0131】そして、導電性の金属膜をスパッタ法や真 空蒸着法で形成し、レジストマスクパターンを形成し、 エッチングによってソース及びドレイン配線818~8 23と、画案電極827、ゲート配線826、接続電極 825を形成する。このようにして図1で示すような画 **案構成の画案部を有するアクティブマトリクス基板を形** 成することができる。また、本実施例のアクティブマト リクス基板を用いても、実施例2で示すアクティブマト リクス型の液晶表示装置を作製することができる。

【0132】また、本実施例では、ゲート電極とソース 配線を同時に形成する例を示したが、マスクを 1 枚増や し、さらにゲート電極と第1の電極を別の工程で形成し てもよい。即ち、まず、半導体層と重なりゲート電極と なる部分だけを形成し、順次n型またはp型の不純物元 素を添加し、活性化を行った後、ゲート電極と重ねて第 30 1の電極を形成する。この際、コンタクトホールの形成 を行うことなく、単なる重ね合わせでゲート電極と第1 の電極とのコンタクトを形成する。また、第1の電極と 同様にソース配線を形成する。こうすることによって第 1の電極及びソース配線の材料として低抵抗なアルミニ ウムや銅を用いることが可能となる。

【0133】[実施例7]本実施例では、実施例1とはア クティブマトリクス基板のTFT構造が異なる他の例を 図12を用いて説明する。

【0134】図12で示すアクティブマトリクス基板 は、第1のpチャネル型TFT950と第2のnチャネ ル型TFT951を有するロジック回路部955と第2 のnチャネル型TFT952から成るサンプリング回路 部956とを有する駆動回路957と、画案TFT95 3と保持容量954を有する画案部958とが形成され ている。駆動回路957のロジック回路部955のTF Tはシフトレジスタ回路やバッファ回路などを形成し、 サンプリング回路部956のTFTは基本的にはアナロ グスイッチで形成する。

は、まず、基板901上に下地膜902を酸化シリコン 膜、酸化室化シリコン膜などで50~200mの厚さに 形成する。その後、レーザー結晶化法や熱結晶化法で作 製した結晶質半導体膜から島状半導体層903~907 を形成する。その上にゲート絶緑膜908を形成する。 そして、 n チャネル型 T F T を形成する島状半導体層 9 04、905と保持容量を形成する島状半導体層907 に1×10¹⁶~1×10¹⁹/cm³の濃度でリン (P) に代 表されるn型を付与する不純物元素を選択的に添加す

【0136】そして、WまたはTaNを成分とする材料 でゲート電極909~912、ゲート配線914、第2 の電極(容量電極) 915、及びソース配線913を形 成する。ゲート配線、第2の電極、ソース配線はAI等 の抵抗率の低い材料で別途形成しても良い。そして、島 状半導体層903~907ゲート電極909~912及 び第2の電極915の外側の領域に1×10¹⁹~1×1 0²¹/cm³の濃度でリン(P)に代表される n 型を付与す る不純物元素を選択的に添加する。こうして第1のnチ 20 ャネル型TFT951、第2のnチャネル型TFT95 2には、それぞれチャネル形成領域931、934、L DD領域933、936、ソースまたはドレイン領域9 32、935**が形成される。画素TFT953のLDD** 領域939はゲート電極912を用いて自己整合的に形 成するものでチャネル形成領域937の外側に形成さ れ、ソースまたはドレイン領域938は。第1及び第2 のnチャネル型TFTと同様にして形成されている。 【0137】 層間絶繰膜は実施例3と同様に、酸化シリ コン、室化シリコン、または酸化室化シリコンなどの無

機材料から成る第1の層間絶緑膜916と、ポリイミ ド、アクリル、ポリイミドアミド、BCB (ペンソシク ロプテン) などの有機絶縁物材料から成る第2の層間絶 緑膜917とで形成する。その後、所定のパターンのレ ジストマスクを形成し、それぞれの岛状半導体層に形成 されたソース領域またはドレイン領域に達するコンタク トホールを形成する。そして、導電性の金属膜をスパッ 夕法や真空蒸着法で形成しソース配線及びドレイン配線 918~923と、画素電極927、ゲート配線92 6、接統電極925を形成する。このようにして図1で 40 示すような画業構造構成の画案部を有するアクティブマ トリクス基板を形成することができる。また、本実施例 のアクティプマトリクス基板を用いても、実施例2で示 すアクティプマトリクス型の液晶表示装置を作製するこ とができる。

【0138】ロジック回路部955の第1のnチャネル 型TFT951はドレイン側にゲート電極と重なるGO LD領域が形成された構造としてある。このGOLD領 域によりドレイン領域近傍に発生する髙電界領域を緩和 して、ホットキャリアの発生を防ぎ、このTFTの劣化 【0 1 3 5】本実施例で示すアクティブマトリクス基板 50 を防止することができる。このような構造のn チャネル

27

型TFTはバッファ回路やシフトレジスタ回路に適している。一方、サンプリング回路部956の第2のnチャネル型TFT952はGOLD領域とLDD領域をLDD領域をLDD領域をLDD領域をLDD領域を関係するアナログスイッチにおいてホットキャリーにおいておりにおいてありた構造となっている。画業TFT953はLDD構造を有し、マルチゲートで形成され、オフ電流の低減を目的とした構造となっている。一方、Pチャネル形成領域の29、930を形成する。

【0139】このように、図12で示すアクティプマトリクス基板は、画素部及び駆動回路が要求する仕様に応じて各回路を構成するTFTを最適化し、各回路の動作特性と信頼性を向上させることを特に考慮した構成となっている。

[0140]また、本実施例では、ゲート電極とソース配線を同時に形成する例を示したが、マスクを1枚増やし、さらにゲート電極と第1の電極を別の工程で形成してもよい。即ち、まず、半導体層と重なりゲート電極となる部分だけを形成し、順次n型またはp型の不純物元素を添加し、活性化を行った後、ゲート電極と重ねて第1の電極を形成する。この際、コンタクトホールの形成を行うことなく、単なる重ね合わせでゲート電極と第1の電極とのコンタクトを形成する。また、第1の電極とのコンタクトを形成する。また、第1の電極とのコンタクトを形成する。こうすることによって第1の電極及びソース配線の材料として低抵抗なアルミニウムや網を用いることが可能となる。

【0141】[実施例8]本実施例では図1とは異なる画 30 案構造を図13に示し、断面構造を図14に示す。それぞれ、A-A、断面図、G-G、断面図を示した。なお、本実施例は、実施例1と保持容量の構成が異なるのみであり、それ以外の構成は実施例1とほぼ同一である。

【0142】本実施例では保持容量は、第2の半導体層1002上の絶縁膜を誘電体として、第2の半導体層1002と、容量電極1005とで形成している。なお、容量電極1005は、容量配線1009と接続されている。また、容量電極1005は、第1の電極1004及40びソース配線1006と同じ絶縁膜上に同時に形成される。また、容量配線は、画素電極1011、接続電極1010、ゲート配線1007と同じ絶縁膜上に同時に形成される。

【0143】また、本実施例では、実施例1とは異なっており、不純物領域1012~1014には画案TFTと同様にn型を付与する不純物元素が添加されている。本実施例のように保持容量を形成する一方の電極が不純物領域1014となる保持容量を備えた画案構造とすることで、画案部が大面積化(例えば対角10インチ以上 50

のパネル) しても対応できる。

【0144】また、本実施例では、ゲート電極とソース 配線を同時に形成する例を示したが、マスクを1枚増や し、さらにゲート電極と第1の電極及び容量配線を別の 工程で形成してもよい。即ち、まず、半導体圏と重なはり が一ト電極となる部分だけを形成し、順次n型またはり型の不純物元素を添加し、活性化を行った後、コンタクトで 極と重ねて第1の電極を形成する。この際、コンタクトで を変えるで表えて第1の電極とのコンタクトを形成する。また、 第1の電極と同時にソース配線、容量配線を形成する。 こうすることによって第1の電極及びソース配線の材料と なる。また、容量配線に重なる半導体圏にn型またはり 型の不純物元素を添加して保持容量の増加を図ることが できる。

【0145】本実施例は、実施例1のマスク設計を変更することで、枚数を増やすことなく作製することができる。

20 【0146】なお、本実施例は実施例1乃至5のいずれ かーと自由に組み合わせることができる。

【0147】[実施例9]本実施例では、実施例1で示したアクティブマトリクス基板のTFTの半導体層を形成する結晶質半導体層の他の作製方法について示す。本実施例では特開平7-130652号公報で開示されている触媒元素を用いる結晶化法を適用することもできる。以下に、その場合の例を説明する。

【0148】実施例1と同様にして、ガラス基板上に下地膜、非晶質半導体層を25~80mの厚さで形成する。例えば、非晶質シリコン膜を55mの厚さで形成する。そして、重量換算で10ppmの触媒元素を含む水溶液をスピンコート法で塗布して触媒元素を含有する層を形成する。触媒元素にはニッケル(Ni)、ゲルマニウム(Ge)、鉄(Fe)、パラジウム(Pd)、スズ(Sn)、鉛(Pb)、コパルト(Co)、白金(Pt)、 飼(Cu)、金(Au)などである。この触媒元素を含有する層170は、スピンコート法の他にスパッタ法や真空蒸着法によって上記触媒元素の層を1~5mの厚さに形成しても良い。

り 【0149】そして、結晶化の工程では、まず400~ 500℃で1時間程度の熱処理を行い、非晶質シリコン 膜の含有水素量を5alom%以下にする。そして、ファー ネスアニール炉を用い、空素雰囲気中で550~600 ℃で1~8時間の熱アニールを行う。以上の工程により 結晶質シリコン膜から成る結晶質半導体層を得ることが できる。

【0150】このうようにして作製された結晶質半導体 層から島状半導体層を作製すれば、実施例1と同様にし てアクティブマトリクス基板を完成させることができ る。しかし、結晶化の工程においてシリコンの結晶化を 助長する触媒元素を使用した場合、島状半導体層中には 微量($1 \times 10^{17} \sim 1 \times 10^{18} atoms/cm^3$ 程度)の触媒 元素が残留する。勿論、そのような状態でもTFTを完成させることが可能であるが、残留する触媒元素を少な くともチャネル形成領域から除去する方がより好ましか った。この触媒元素を除去する手段の一つにリン(P) によるゲッタリング作用を利用する手段がある。

【0151】この目的におけるリン(P)によるゲッタリング処理は、図3(C)で説明した活性化工程で同時に行うことができる。ゲッタリングに必要なリン(P)の設度は高濃度 n型不純物領域の不純物濃度と同程度でよく、活性化工程の熱アニールにより、n チャネル型TFTのチャネル形成領域にない。その結果その変度でリン(P)を含有する不純物領域には $1 \times 10^{17} \sim 1 \times 10^{19} a loms/cm^3$ 程度の触媒元素が偏折した。このようにして作製したTFTはオフ電流値が下がり、結晶性が良いことから高い電界効果移動度が得られ、良好な特性を造成することができる。

【0152】なお、本実施例は、実施例1乃至8のいず 20 れか一と自由に組み合わせることが可能である。

【0153】[実施例10]本実施例では、実施例1とは 異なる画案構造 (IPS方式)を図15に示し、断面構 造を図16に示す。それぞれ、A-A'斯面図、H-H'斯面図を示した。

【0154】本実施例は、IPS (In-Plane Switching)方式(横電界方式とも言う)のアクティブマトリクス型の液晶表示装置の一例を示す。IPS方式は画素電極と共通配線(以下、コモン配線と呼ぶ)との両方を一方の基板に形成し、横方向に電界を印加することに特徴 30があり、液晶分子の長軸が基板面にほぼ平行な方向に配向制御されている。このIPS方式とすることで視野角を広げることができる。

【0155】図15において、1101は第1の半導体層、1102、1103は第2の半導体層、1104は第1の電極、1105は第2の電極、1106はソース配線、1107はゲート配線、1108、1109はコモン配線、1110は接続電極、1111は画案電極である。なお、画案電極とコモン配線は、基板面と平行な電界が生じるように配置されている。また、コモン配線はソース配線と重なるように配置されており画案部の開口率を向上させている。

【0156】また、図16に示すように第1の電極1104、第2の電極1105、及びソース配線1106は、第1の半導体層及び第2の半導体層を覆う絶繰膜上に同時に形成されている。また、画素電極1111、接続電極1110、ゲート配線1107、及びコモン配線1109は、ソース配線を覆う層間絶縁膜上に同時に形成されている。

【0157】また、第1の電極はゲート配線と電気的に 50 ゲート電極として機能する。

接続されており、第1の半導体層と重なる第1の電極は ゲート電極として機能する。

【0158】また、本実施例では、長方形状の画素電極を示したが、画素電極及びコモン電極の形状をくの字の電極構造として、さらに視野角を広げてもよい。

【0159】また、保持容量は、第2の半導体層と、第2の半導体層を覆う絶縁膜と、第2の電極とで形成される。この第2の電極は隣り合う画案のゲート配線と電気的に接続されている。また、第2の半導体層にはp型を10 付与する不純物元素が添加されている。

【0160】なお、本実施例は、実施例1のマスクバターンを変更すれば実施例1と同じ工程で得られる画案構成である。

【0161】実施例1を用いて図15及び図16に示す 状態を得た後、実施例2に示した方法により液晶表示装 置を得る。画案間の隙間は実施例2と同様に対向基板に 設けたカラーフィルタを用いて遮光する。ただし、1P S方式とするため、配向処理などを変更する必要があ る。

1 【0162】[実施例11]本実施例では、実施例10とは異なる他の1PS方式の画案構造を図17に示し、断面構造を図18に示す。それぞれ、J-J'断面図、K-K'断面図を示した。なお、本実施例は、実施例10と画素電極の構成が異なるのみであり、それ以外の構成は実施例10とほぼ同一である。

【0163】図17において、1201は第1の半導体層、1202、1203は第2の半導体層、1204は第1の電極、1205は第2の電極、1206はソース配線、1207はゲート配線、1208、1209は五七ン配線、1210は第1の接統電極、1211は画素電極、1212、1213は第2の接統電極である。なお、画素電極とコモン配線は、基板面と平行な電界が生じるように配置されている。また、画素電極1211は透光性を有する導電膜(1TO膜等)を用いており、マスクを1枚増やして透光性を有する導電膜を加るとで重ねあわせて電気的な接続を可能としている。画素電極として近光性を有する導電膜を用いることによって開口率を向上させている。また、コモン配線はソース配線と重なるように配置されており画素部の開口率を向上させている。

【0164】また、図18に示すように第1の電極1204、第2の電極1205、及びソース配線1206は、第1の半導体層及び第2の半導体層を覆う絶縁膜上に同時に形成されている。また、第1の接続電極1210、ゲート配線1207、及びコモン配線1209、第2の接続電極1213、1212は、ソース配線を覆う層間絶縁膜上に同時に形成されている。

【0165】また、第1の電極はゲート配線と電気的に 接続されており、第1の半導体層と重なる第1の電極は ゲート電極として機能する 【0166】また、本実施例では、長方形状の画素電極を示したが、画素電極及びコモン電極の形状をくの字の電極構造として、さらに視野角を広げてもよい。

【0167】また、保持容量は、第2の半導体層と、第2の半導体層を覆う絶縁膜と、第2の電極とで形成される。この第2の電極は隣り合う画素のゲート配線と電気的に接続されている。また、第2の半導体層にはp型を付与する不純物元素が添加されている。

【0168】なお、本実施例は、実施例1のマスクバターンを変更すれば実施例1と同じ工程で得られる画素構、10成である。

【0169】実施例1を用いて図15及び図16に示す 状態を得た後、実施例2に示した方法により液晶表示装 置を得る。画案間の隙間は実施例2と同様に対向基板に 設けたカラーフィルタを用いて遮光する。ただし、IP S方式とするため、配向処理などを変更する必要があ る。

【0170】[実施例12]本実施例では、実施例1とは 異なる保持容量の断面構造を図19に示す。なお、本実 施例は、実施例1と保持容量の構成が異なるのみであ り、それ以外の構成は実施例1とほぼ同一である。な お、同じ符号を用いた部分はそれぞれ実施例1と対応し ている。

【0171】まず、実施例1に従って層間絶縁膜を形成する状態を得た後、マスクを1枚増やし、選択的にエッチングして層間絶縁膜を一部除去して、有機樹脂からなる層間絶縁膜1300と層間絶縁膜157を選択的に残す。次いで、画素電板1302を形成する。

【0172】本実施例では、実施例1と同様に第1絶繰 膜を誘電体として不純物領域153~156を含む半導 体層と容量電極1301とで保持容量が形成される。加 えて、層間絶縁膜157を誘電体として容量電極130 1と画素電極1302とで保持容量が形成される。な お、不純物領域153~156には画案TFTと同様に n型またはp型を付与する不純物元素が添加されている。

【0173】このような構成とすることでさらなる保持容量の増加を図ることができる。

【0174】なお、本実施例は実施例1乃至9のいずれか一と自由に組み合わせることができる。

【0175】[実施例13]本発明を実施して形成された CMOS回路や画素部は様々な電気光学装置 (アクティブマトリクス型液晶ディスプレイ、アクティブマトリクス型ECディスプレイ) に用いることができる。即ち、それら電気光学装置を表示部に組み込んだ電子機器全てに本発明を実施できる。

【0176】その様な電子機器としては、ビデオカメ ラ、デジタルカメラ、プロジェクター (リア型またはフロント型)、ヘッドマウントディスプレイ (ゴーグル型 ディスプレイ)、カーナビゲーション、カーステレオ、 パーソナルコンピュータ、携帯情報端末(モパイルコン ピュータ、携帯電話または電子書籍等)などが挙げられ る。それらの一例を図20、図21、及び図22に示 す。

【0177】図20(A)はパーソナルコンピュータであり、本体2001、画像入力部2002、表示部2003、キーボード2004等を含む。本発明を画像入力部2002、表示部2003に適用することができる。【0178】図20(B)はピデオカメラであり、本体2101、表示部2102、音声入力部2103、操作スイッチ2104、パッテリー2105、受像部2106等を含む。本発明を表示部2102に適用することができる。

【0179】図20(C)はモバイルコンピュータ(モービルコンピュータ)であり、本体2201、カメラ部2202、受像部2203、操作スイッチ2204、表示部2205等を含む。本発明は表示部2205に適用できる。

【0180】図20(D)は頭部取り付け型のディスプ 20 レイの一部(右片側)であり、本体2301、信号ケーブル2302、頭部固定パンド2303、表示部230 4、光学系2305、表示装置2306等を含む。本発明は表示装置2306に用いることができる。

【0181】図20(E)はプログラムを記録した記録 媒体(以下、記録媒体と呼ぶ)を用いるプレーヤーであ り、本体2401、表示部2402、スピーカ部240 3、記録媒体2404、操作スイッチ2405等を含 む。なお、このプレーヤーは記録媒体としてDVD(D igtial Versatile Disc)、CD 30 等を用い、音楽鑑賞や映画鑑賞やゲームやインターネッ トを行うことができる。本発明は表示部2402に適用 することができる。

【0182】図20(F)はデジタルカメラであり、本体2501、表示部2502、接眼部2503、操作スイッチ2504、受像部(図示しない)等を含む。本発明を表示部2502に適用することができる。

【0183】図21(A)はフロント型プロジェクターであり、投射装置2601、スクリーン2602等を含む。本発明は投射装置2601の一部を構成する液晶表 40 示装置2808に適用することができる。

【0184】図21 (B) はリア型プロジェクターであり、本体2701、投射装置2702、ミラー2703、スクリーン2704等を含む。本発明は投射装置2702の一部を構成する液晶表示装置2808に適用することができる。

【0185】なお、図21 (C) は、図21 (A) 及び図21 (B) 中における投射装置2601、2702の構造の一例を示した図である。投射装置2601、2702は、光源光学系2801、ミラー2802、280504~2806、ダイクロイックミラー2803、プリズ

ム2807、液晶表示装置2808、位相差板280 9、投射光学系2810で構成される。投射光学系28 10は、投射レンズを含む光学系で構成される。本実施 例は三板式の例を示したが、特に限定されず、例えば単 板式であってもよい。また、図21 (C) 中において矢 印で示した光路に実施者が適宜、光学レンズや、偏光機 能を有するフィルムや、位相差を調節するためのフィル ム、IRフィルム等の光学系を設けてもよい。

【0186】また、図21(D)は、図21(C)中に る。本実施例では、光源光学系2801は、リフレクタ -2811、光源2812、レンズアレイ2813、2 *814、偏光変換案子2815、集光レンズ2816で. 構成される。なお、図21 (D) に示した光源光学系は 一例であって特に限定されない。例えば、光源光学系に 実施者が適宜、光学レンズや、偏光機能を有するフィル ムや、位相差を調節するフィルム、IRフィルム等の光 学系を設けてもよい。

【0187】ただし、図21に示したプロジェクターに おり、反射型の電気光学装置での適用例は図示していな 11

【0188】図22 (A) は携帯電話であり、本体29 . 01、音声出力部2902、音声入力部2903、表示 節2904、操作スイッチ2905、アンテナ2906 等を含む。本発明を表示部2904に適用することがで

【0189】図22 (B) は携帯書籍 (電子書籍) であ り、本体3001、表示部3002、3003、記憶媒 体3004、操作スイッチ3005、アシテナ3006 等を含む。本発明は表示部3002、3003に適用す ることができる。

【0190】図22 (C) はディスプレイであり、本体 3101、支持台3102、表示部3103等を含む。 本発明は表示部3103に適用することができる。本発 明のディスプレイは大画面化した場合においても有利で あり、対角10インチ以上(特に30インチ以上)のデ ィスプレイには有利である。

【0191】以上の様に、本発明の適用範囲は極めて広 く、あらゆる分野の電子機器に適用することが可能であ る。また、本実施例の電子機器は実施例1~12のどの ような組み合わせからなる構成を用いても実現すること ができる。

【0192】[実施例14]実施例1では、第1の形状の 導電層を形成する第1のエッチング処理を1回のエッチ ング条件で行ったが、絶緑膜の膜減り及び形状の均一性 おける光源光学系 2 8 0 1 の構造の一例を示した図であ i0 を向上させるため、複数回のエッチング条件で行っても よい。本実施例では第1のエッチング処理を2回のエッ チング条件で第1の形状の導電層を形成する例を示す。 【0193】また、本発明は、ゲート電極の両側にテー パー形状が形成され、チャネル形成領域の両側にLDD 領域が形成されるが、本実施例は、作製工程におけるゲ ート電極近傍の片側の断面拡大図を示す図24を用いて 説明する。なお、簡略化のため、下地膜と基板は図示し ていない。

【0194】まず、実施例1に従って、図2(A)と同 おいては、透過型の電気光学装置を用いた場合を示して 20 じ状態を得る。第1の導電膜は、膜厚20~100 $\,\mathrm{nm}$ とし、第2の導電膜は、膜厚100~400 nmとすれ ばよく、本実施例では、膜厚30nmのTaNからなる 第1の導電膜と膜厚370mmのWからなる第2の導電 膜を積層形成した。TaNは、非常に耐熱性が高いた め、第1の導電膜の材料として好ましい。

> 【0195】次いで、レジストからなる第1の形状のマ スク1405aを形成し、ICP法によりエッチングを 行って第1の形状の第2の導電層1404aを形成す る。ここでは、TaNと選択比が高いエッチングガスと 30 してCF4とCl2とO2からなる混合ガスを用いたた め、図24(A)に示した状態を得ることができる。表 1に様々なエッチング条件と第2の導電層 (W) のエッ チングレート、第1の導電圈 (TaN) のエッチングレ ート、または第2の尊電層(W)のテーパー角との関係 を示す。

[0196]

【表 1】

条件	I CP	バイアス	任力 [Pa]	CF4		2001	WER (1) [max/spin]	Tan E.R. (2) [na/sin]	M/Tall进报比	Wテーパー角度
	500	- 20	1. D	30	30	-			O֯	[deg
7	500	60	1.0	_		0	58. 97	6£ 43	0. 889	80
- ; - /	500	100		30	30	0	88.71	118, 46	0. 750	25
		_	1.0	30	30	0	111.66	168, 03	0. 867	18
	500	20	1.0	25	25	10	124. 62	20. 67	£. 049	70 .
	500	60	1.0	25	26	10	161, 72	35.81	4. 52B	35
	500	100	1.0	25	25	10	176. 90	56. 32	3, 008	32
	500	150	1. 0	25	25	10	200, 39	BQ. 32	2 495	26
_8[500	200	1. 0	25	25	10	218. 20	1G2_87	2. 124	22
9	500	250	1. 0	25	25	10	232, 12	124 97	1. 860	
10	500	20	1. 0	ZO	20	20 H	- (0)	14.83	1. 000	19
11	500	60	1.0	20	20	20	193. 02	14.23	13. 595	
12	500	100	1. 0	20	20	20	235. 27	21. 81		37
13	500	150	1.0	20	20	20	276. 74	38.61	10. 858	29
14	SOD	200	1. 0	20	20	20	290, 10		7. 219	26
15	500	250	1.0	20	20	20	304.34	45.10	6. 422	24
				- 20	- 20			50. 25	6.091 酒が変質したた	22

36

【0197】なお、本明細書においてテーパー角とは、 図24(A)の右上図に示したように、水平面と材料層 の側面とがなす角を指している。

【0198】また、水平面と第2の導電層(W)の側面とがなす角(テーパー角 α 1)は、第1のエッチング条件を、例えば表1中の条件4 \sim 15のいずれかーに設定することで19度 \sim 70度の範囲で自由に設定することができる。なお、エッチング時間は実施者が適宜設定すればよい。

【0199】また、図24(A)において、1401は 10 る。 半導体層、1402は絶縁膜、1403は第1の導電膜 【C である。 対1

[0200] 次いで、マスク1405aをそのままにした状態で、第2のエッチング条件とし、エッチングを行って、第1の形状の第1の導電層1403aを形成する。なお、第2のエッチング条件でのエッチングの際、絶録膜1402aとなる。ここでは、第2のエッチング条件のエッチングがスとして CF_4 と C_{12} からなる混合ガスを用いた。第2のエッチング条件として、例えば、表201の条件1~3のいずれかーを用いればよい。このように第1のエッチング処理を2回のエッチング条件で行うことによって、絶縁膜1402の膜減りを抑えることができる。

【0201】次いで、第1のドーピング処理を行う。半 導体に一導電型を付与する不純物元素、ここでは、n型 を付与するリンをイオンドーピング法を用い、第1の形 状の第1の導電層1403a及び第1の形状の第2の導 電層1404aをマスクとして半導体層1401に添加 する。(図24(B))なお、図24(B)では、第2 のエッチング条件のエッチングを行った際、第1の形状 の第2の導電層1404aも若干、エッチングされるが 微小であるため図24(A)と同一形状として図示し た。

【0202】次いで、マスク1405 aをそのままにした状態で、第2のエッチング処理を行い、図24(C)に示した状態を得る。本実施例では、第2のエッチング処理として、 $CF_4 \& CI_2$ からなる混合ガスを用いた第2のエッチング条件でエッチングを行った後、さらに $CF_4 \& CI_2 \& O_2$ からなる混合ガスを用いた第2のエッチング条件でエッチングを行った。これらのエッチング条件でエッチングを行った。これらのエッチング条件は、表1中のいずれか一条件を用い、エッチング等は、表1中のいずれか一条件を用い、エッチング等は、表1中のいずれか一条件を開めてまる。また、各導電局の手ですることができる。この第2のエッチング処理によって、第2の形状のでスク1405b、第2の形状の第1の導電局1404b、及び第2の形状の絶録膜1402bが形成される。

【0203】第2の形状の第2の導電層 1404 bは、 テーパー角 α 1 よりも大きいテーパー角 α 2 を形成し、 第2の形状の第1の導電層1403bは非常に小さいテーパー角Bを形成する。また、第2の形状の絶縁膜においてもテーパー角γが部分的に形成される。

【0204】次いで、マスク1405bを除去した後、第2のドーピング処理を行う。(図24(D))第2のドーピング処理は、第1のドーピング処理よりも低濃度のドーピングを行う。ここでは、n型を付与するリンをイオンドーピング法を用い、第2の形状の第2の導電層1404bをマスクとして半導体層1401に添加する

【0205】この第2のドーピング処理により不純物領域1401a~1401cが形成される。また、絶録膜及び第1の導電層を挟んで第2の導電層と重なる半導体層は、チャネル形成領域となる。なお、図示しないが、チャネル形成領域を挟んで両側に不純物領域1401a~1401cが左右対称に形成される。

【0206】また、ドーピングにおいて、半導体局上に位置する材料層の膜厚が厚くなればなるほどイオンの注入される深さが茂くなる。従って、絶縁膜を挟んで第1の等電層と重なる不純物領域1401c、即ち第3の不純物領域(GOLD領域)は、テーパー角βの側面を有するテーパー形状の部分の影響を受けて、半導体層中に添加される不純物元素の震度が変化する。膜厚が厚くなればなるほど不純物濃度が増加する。

【0207】また、同様に不純物領域1401b、即ち第2の不純物領域(LDD領域)は、第2の形状の絶録膜1402bの膜厚による影響を受け、半導体層中に添加される不純物元素の濃度が変化する。即ち、テーバー角アの側面を有するテーパー形状となっている部分の膜厚による部分の膜厚による部分の膜厚による部分の膜厚によるでもある。なお、第1の導電層と重なっていない不純物領域1401bは、不純物領域1401cより濃度が高い。また、チャネル長方向における不純物領域1401bの幅は、不純物領域1401cと同程度、もしくは不純物領域1401cより広い。

【0208】また、不純物領域1401a、即ち第1の不純物領域は、第1のドーピング処理により添加された40不純物選度に加え、さらに第2のドーピング処理により添加されて高濃度不純物領域となり、ソース領域またはドレイン領域として機能する。

【0209】以降の工程は、実施例1の図3 (B) 以降の工程に従ってアクティブマトリクス基板を作製すればよい。

【0210】上記方法により画案部のTFT及び駆動回路のTFTが形成される。

【0211】また、本実施例は、実施例1乃至4、7乃 至13のいずれか一と自由に組み合わせることができ 50 る。

38

【0212】また、本実施例のエッチングガス用ガス(CF_4 と Cl_2 の混合ガス)に代えて SF_6 と Cl_2 の混合ガスを用いた場合、あるいは CF_4 と Cl_2 と O_2 の混合ガスに代えて SF_6 と Cl_2 と O_2 の混合ガスを用いた場合、絶縁膜 1402 との選択比が非常に高いのでさらに膜減りを抑えることができる。

[0213]

【発明の効果】本発明によりマスク数及び工程数を増加させることなく、高い開口率を実現した画案構造を有する液晶表示装置を実現することができる。

【図面の簡単な説明】

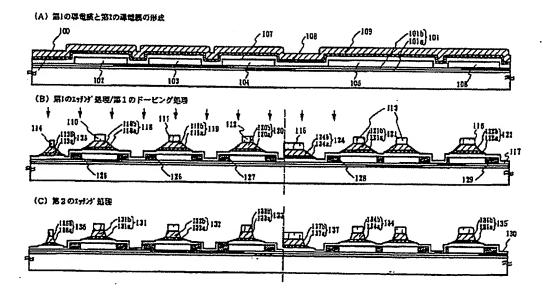
- 【図1】 本発明の画案部上面図を示す図。 (実施例1)
- 【図2】 アクティブマトリクス基板の作製工程を示す図。(実施例1)
- 【図3】 アクティブマトリクス基板の作製工程を示す図。(実施例1)
- 【図4】
 アクティブマトリクス基板の作製工程を示す図。 (実施例1)
- 【図5】 反射型液晶表示装置の断面構造図を示す図。(実施例2)
- 【図 6】 本発明の画案部上面図を示す図。 (実施例 1)
- 【図7】 アクティブマトリクス基板の上面図及び断面図を示す図。 (実施例3)
- 【図8】 端子部の断面図を示す図。 (実施例3)
- 【図9】 透過型液晶表示装置の断面構造図を示す図。(実施例4)

- 【図10】 端子部の断面図を示す図。 (実施例5)
- 【図11】 本発明のアクティブマトリクス基板の断面
- を示す図。(実施例6)
- 【図12】 本発明のアクティブマトリクス基板の断面
- を示す図。 (実施例7)

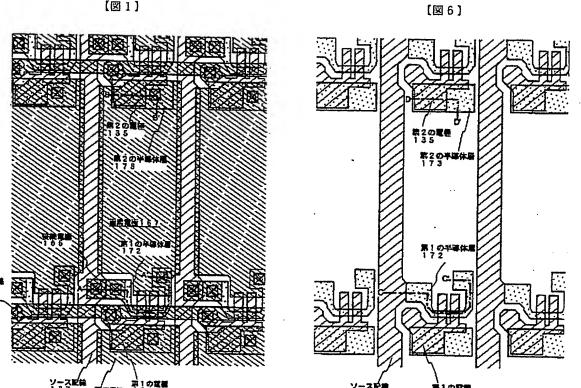
10)

- 【図 1 3 】 本発明の画案部上面図を示す図。(実施例.8)
- 【図 1 4 】 本発明の画楽部断面図を示す図。 (実施例8)
- 10 【図15】 本発明の画案部上面図を示す図。 (実施例 10)
 - 【図 1 6 】 本発明の画案部断面図を示す図。(実施例
 - 【図17】 本発明の画案部上面図を示す図。 (実施例11)
 - 【図18】 本発明の画案部断面図を示す図。 (実施例11)
 - 【図19】 本発明の画案部断面図を示す図。(実施例12)
- 20 【図20】 電子機器の一例を示す図。 (実施例13)
 - 【図21】 電子機器の一例を示す図。 (実施例13)
 - 【図22】 電子機器の一例を示す図。 (実施例13)
 - 【図23】 従来例を示す図。
 - 【図24】 アクティブマトリクス基板の作製工程の断面拡大図を示す図。 (実施例14)
 - 【図25】 本発明の画素部上面図を示す図。(実施例4)

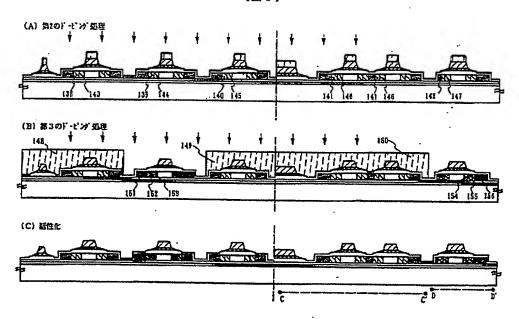
[図2]



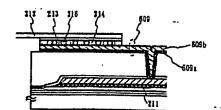




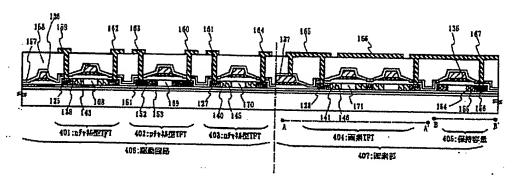
[図3]



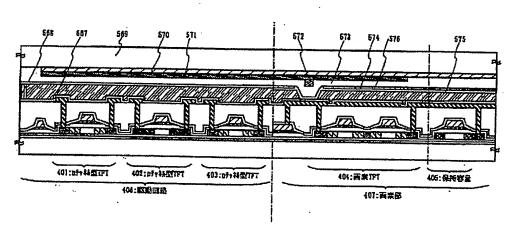
[図10]



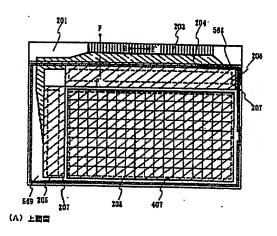
[図4]

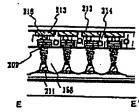


[図5]



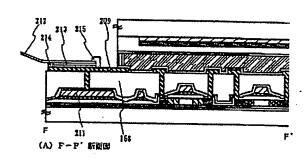
[図7]

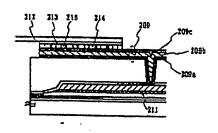




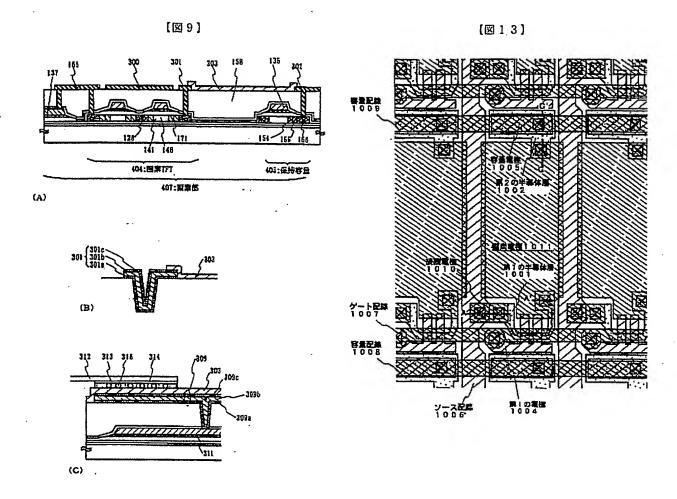
(8) 2-2'新國國

[図8]

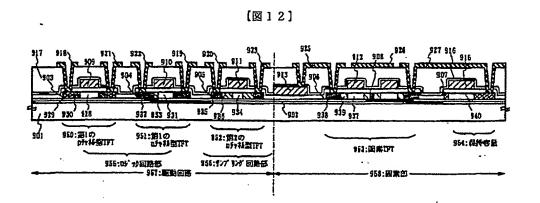




(B)

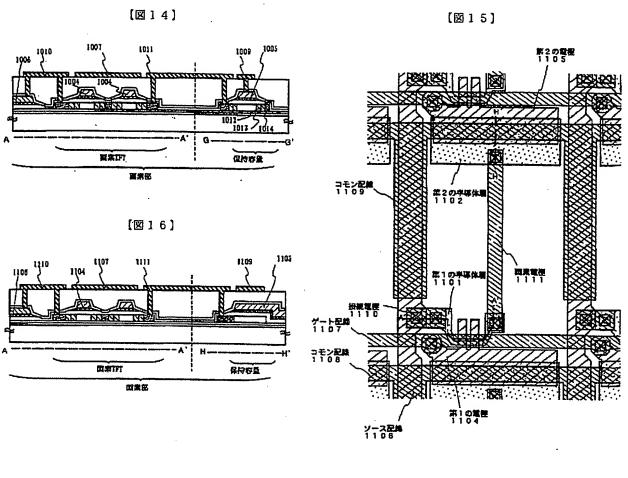


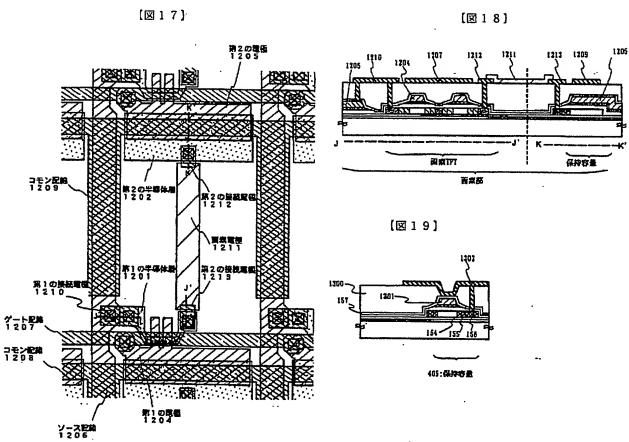
[図11]



855:サンプ ウング 回路部

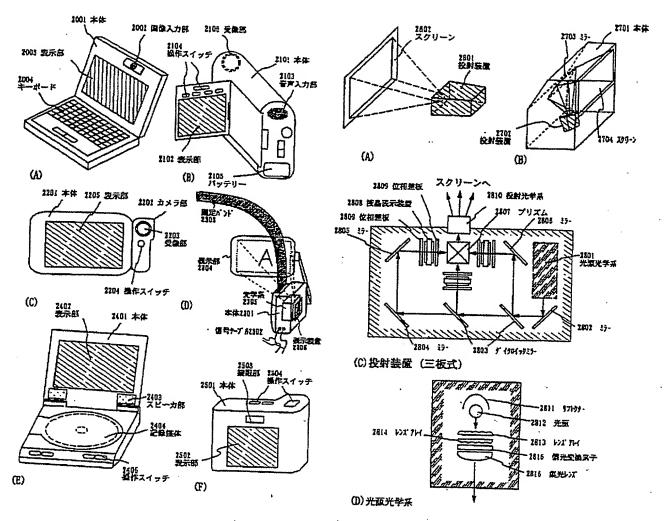
855:05° 77回路部 867:夏勤回路



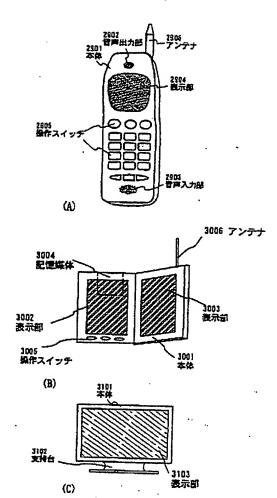


[図20]

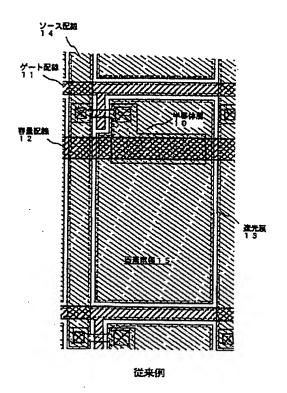
[図21]



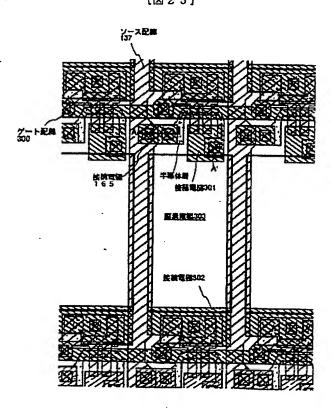
[図22]



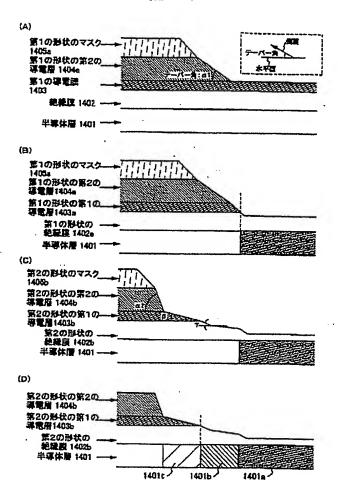
[図23]



[図25]



[図24]



This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
□ OTHER:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

THIS PAGE BLANK (USPTO)